本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第 1 章　ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

第 2 章　快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや、画面の設定方法などについて説明しています。

第 3 章　リカバリとインストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明します。

第 4 章　困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

第 5 章　技術情報

留意事項および Save To Disk 領域について説明しています。

目次

本書をお読みになる前に 5
お問い合わせ一覧 5
本書の表記 6

第 1 章　ご購入後の操作
1 セットアップ 10
Windows98 セットアップ 10
モデムを使用可能にする（モデムモデルとコンボモデル） 12
タッチパネルの調整（〔MC〕タッチパネルモデル） 13
2 ユーザー登録と起動ディスクのコピー 15
ユーザー登録を忘れずに 15
Windows98 起動ディスクを作成してください（〔MC〕） 15
リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー（〔MC〕） 15
ポータブル CD-ROM ドライブを使用するための設定 17
3 プレインストール仕様 19
ソフトウェア一覧 19
デバイス一覧 22
ドライブ構成 24
アプリケーションのアンインストール 25

第 2 章　快適にお使いいただくために
1 コンピュータウイルス対策 28
VirusScan 28
コンピュータウイルスを発見した場合 29
コンピュータウイルスの被害届け 29
2 MS-DOS モードで CD-ROM を利用する 31
MS-DOS モードで CD-ROM をご使用になる場合 31
3 画面を設定する 32
解像度と色数 32
表示装置を切り換える 35
ローテーション機能を使う（〔MC〕タッチパネルモデル） 37
マルチモニタ機能を使う 38

4 赤外線通信 46
赤外線通信の概要 46
Intellisync 47
5 省電力 49
スタンバイ／レジューム機能 49
ご購入時の節電の設定 53
「電源の管理のプロパティ」での設定 53
PMSet98 での設定（〔MF〕以外） 56

第 3 章　リカバリとインストール

1 リカバリ 58
リカバリの概要 58
ハードディスクの圧縮を解除する 59
ハードディスクの領域を設定する 60
リカバリ方法 63
2 ソフトウェアライブラリのアップデート 66
アップデート方法 66
3 ソフトウェアのインストール 67
ドライバのインストール 67
プレインストールソフトのインストール 68
添付ソフトのインストール 71

第 4 章　困ったときに

1 こんなときには 78
トラブル発生時の参照先 78
トラブルシューティング 78
2 それでも解決できないときは 84
お問い合わせ前の確認シート 85

第 5 章　技術情報

1 その他の留意事項 88
2 Save To Disk 領域 102

索引 105

本書をお読みになる前に

お問い合わせ一覧

本パソコンに添付されているソフトウェアの内容については、次の連絡先にお問い合わせください。なお、記載の情報は、2000 年 5 月現在のものです。電話番号などが変更されている場合は、FM インフォメーションサービスへお問い合わせください。

- **はじめよう！インターネット（@nifty）**
  - 入会／ @nifty サービス全般
    ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-816-042
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5444-2902）
    E-mail：feedback@nifty.com
  - テクニカルサポート
    ニフティ株式会社 @nifty サービスセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-818-275
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5753-2373）
    E-mail：feedback@nifty.com
  - パスワード再発行／各種手続き／解約
    ニフティ株式会社 @nifty カスタマーセンター
    9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
    電話：0120-842-210
    （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
    E-mail：feedback@nifty.com
- **NIFTY MANAGER for Windows Version 5.12**
  ニフティマネジャーでの接続や操作方法について
  ニフティ株式会社 ニフティマネジャー
  サポートセンター
  9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
  電話：0120-326-526
  （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
  E-mail：feedback@nifty.com
- **NIFTY SERVE（パソコン通信サービス）の利用に関して**
  ニフティ株式会社 パソコン通信サポート
  センター
  9:00 ～ 21:00（指定の休日を除く）
  電話：0120-22-1200
  （携帯・PHS・海外の場合：03-5471-5806）
  E-mail：feedback@nifty.com
- **10 円メールマスター Ver.2**
  マスターネット株式会社 会員サポートダイヤル
  10:00 ～ 17:00（土日、祝祭日を除く）
  電話：0120-526-900、03-5381-4500
  FAX：03-5381-4511
  E-mail：support@mnx.ne.jp
- **VirusScan for Windows95/98**
  日本ネットワークアソシエイツ株式会社
  テクニカルサポートセンター
  9:00 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00（土日、祝祭日を除く）
  電話：03-3379-7770
- **Adobe Acrobat Reader4.05**
  ソフトウェア提供会社様より無償で提供されている製品のため、ユーザーサポートはございません。ご了承ください。
- **アプリケーション（カスタムメイドオプション）**
  各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
- **その他　FM シリーズの技術的なご質問・ご相談**
  FM インフォメーションサービス
  （添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください）

本ソフトウェア製品の中には第三者のソフトウェア製品が含まれています。お客様の本ソフトウェア製品の使用開始については、お客様が弊社の「ご使用条件」に同意された時点とし、第三者のソフトウェア製品についても同時に使用開始とさせていただきます。
なお、第三者のソフトウェアについては、製品の中に特に記載された契約条件がある場合には、その契約条件にしたがい取り扱われるものとします。

本書の表記

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「＋」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy  a:  a:
          ↑   ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を 1 回押してください。
- コマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、［CD-ROM ドライブ］と表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe
```

画面例

本書に記載されている画面は一例です。実際に表示されるウィンドウやファイル名などとは異なる場合があります。ご了承ください。

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「ー」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「フロッピーディスク A」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」ー「フロッピーディスク A」：使用しない

フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ

フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブが搭載されていないモデルの場合、各ドライブが必要な操作では、別売のオプションを用意してください。使用できるオプションについては、『システム構成図』をご覧ください。

オプションの使用方法についてはオプションのマニュアルをご覧ください。

お問い合わせ先／ URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2000 年 5 月現在のものです。変更されている場合は、FM インフォメーションサービスへお問い合わせください（→『修理サービス網一覧表』参照）。

製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

Microsoft® Windows® 2000 Professional を、Windows2000 と表記しています。

Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION を、Windows98 と表記しています。

Microsoft® Windows® 95 operating system を、Windows95 と表記しています。

Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 を、WindowsNT 4.0 または WindowsNT と表記しています。

Microsoft® MS-DOS® operating system Version 6.2/V を、MS-DOS と表記しています。

NIFTY MANAGER for Windows Version 5.12 を、NIFTY MANAGER と表記しています。

VirusScan for Windows 95/98 を、VirusScan と表記しています。

Adobe® Acrobat® Reader 4.05 を、Acrobat Reader と表記しています。

Intellisync® for Notebooks を、Intellisync と表記しています。

10 円メールマスター Ver.2 を、10 円メールマスターと表記しています。

Intel® SpeedStep™ Technology Applet を、Intel SpeedStep と表記しています。

ドライバーズ CD ／マニュアル CD をドライバーズ CD と表記しています。

機種名表記

本文中の機種名表記は、次のようになっています。機種名を確認してください。

機種名	本文中の表記	
FMV-6750NA7/B	〔NA〕	本パソコン パソコン本体
FMV-6650NU7/L FMV-6600NU7/L FMV-650NU7C/L FMV-650NU7C/W	〔NU〕	
FMV-6600MF7/X FMV-645MF7C/W	〔MF〕	
FMV-645MC7C/W	〔MC〕	

モデル	本文中の表記
モデムのみ搭載	モデムモデル
LAN のみ搭載	LAN モデル
モデムと LAN 搭載	コンボモデル
モデムと PDC コネクタ搭載	モデムモデル（PDC コネクタ付き）
〔MC〕タッチパネル搭載	〔MC〕タッチパネルモデル
〔MC〕タッチパネル搭載なし	〔MC〕ベースモデル

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
K56flex は、Lucent Technologies 社、Conexant Systems Inc. の商標です。
VirusScan は、米国 Network Associates 社及び関連会社の商標又は登録商標です。
Puma Technology, Intellisync は米国プーマテクノロジー社の商標です。
ZAURUS は、シャープ株式会社の登録商標です。
Intel® SpeedStep™ Technology は、米国 Intel Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

第 1 章

ご購入後の操作

お買い求めいただいたパソコンを使えるようにするための操作を説明しています。必ず、本書の手順に従って操作してください。

1　セットアップ 10
2　ユーザー登録と起動ディスクのコピー 15
3　プレインストール仕様 19

1 セットアップ

初めて電源を入れたあとに行う Windows98 の初期設定（Windows98 セットアップ）について説明します。必ず、本書の手順に従って操作してください。

Windows98 セットアップ

電源を入れて Windows98 セットアップを始めます。
なお、内蔵ポインティングデバイスがない場合には、あらかじめマウスを用意してください。

留意事項

- Windows98 セットアップを行う前に、オプションを取り付けないでください（カスタムメイドオプションを除く）。
- Windows98セットアップを行う前にオプションを取り付けると、Windows98セットアップが正常に行われない場合があります。
- Windows98 セットアップ時に音が鳴るので、スピーカーのボリュームを調整してください（→『ハードウェアガイド』参照）。
- Windows98 セットアップの各ダイアログボックスが完全に表示されないうちにキーを押すと、Windows98 セットアップが正常に行われない場合があります。ダイアログボックスが完全に表示されてから、ポインティングデバイスで操作してください。
- Windows98 セットアップが進められなくなった場合は、次の手順に従って、パソコン本体の電源を入れ直してください。
  1 パソコン本体の MAIN スイッチを OFF にするか、SUS/RES スイッチを 4 秒以上押したままにして、強制的に電源を切ります。
  2 10 秒以上たってから、パソコン本体の電源を入れます。
- 〔NU〕ワイヤレスマウス添付モデルは、内蔵ポインティングデバイスで Windows98 セットアップを操作してください。
- LAN モデルとコンボモデルに LAN ケーブルが接続されていない場合、本パソコンの起動および省電力モードからの復帰に時間がかかることがあります。

セットアップ

1 **内蔵ポインティングデバイスがない場合、マウスを取り付けます（→『ハードウェアガイド』参照）。**

2 **AC アダプタを接続し、本パソコンの電源を入れます。**

ハードウェアの検出が始まり、必要なソフトウェアがインストールされます。

- 〔NA〕の場合
  1「ネットワークパスワードの入力」ダイアログボックスが表示されます。
  2「キャンセル」をクリックします。

「Windows 98 へようこそ」の画面が表示されます。

3 「名前」と「ふりがな」を入力し、「次へ」をクリックします。

「ふりがな」は省略できます。

- モデムモデルとコンボモデルの場合

1 「モデムを使って接続する」ダイアログボックスが表示されます。
2 「スキップ」をクリックします。
「ダイヤルのキャンセル」ダイアログボックスが表示されます。
3 「はい」をチェックし、「次へ」をクリックします。

使用許諾契約書が表示されます。
「使用許諾契約書」とは、本パソコンにあらかじめインストールされている Windows98 を使用するうえでの契約を記述したものです。

4 「使用許諾契約書」をよく読み、「同意する」をクリックし、「次へ」をクリックします。

POINT

- 「同意しない」を選択した場合は、「次へ」をクリックし、メッセージに従って操作してください。

「セットアップの完了」の画面が表示されます。

5 「完了」をクリックします。

6 「日付と時刻のプロパティ」ダイアログボックスが表示されたら、「閉じる」をクリックします。

〔NA〕以外の LAN モデルとコンボモデルは、以下の手順を行ってください。

7 本パソコンを再起動します。

LAN デバイスが検出されます。

8 「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されたら、「はい」をクリックします。

POINT

- 〔MF〕〔MC〕では、再起動に 2 ～ 3 分かかります。

これで、Windows98 セットアップが完了しました。
カスタムメイドオプションでアプリケーションを選択している場合は、添付の『アプリケーション補足説明書』をご覧ください。
また、ご使用の機種やモデルに応じて、以下の記述をご覧ください。

モデムモデルとコンボモデル	「モデムを使用可能にする（モデムモデルとコンボモデル）」（→P.12）
〔MC〕タッチパネルモデル	「タッチパネルの調整（〔MC〕タッチパネルモデル）」（→ P.13）

モデムを使用可能にする（モデムモデルとコンボモデル）

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「モデム」アイコンをダブルクリックします。

「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ダイヤルのプロパティ」をクリックします。

「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

3 各項目を入力し、「OK」をクリックします。

- 国／地域：日本
- 市外局番：使用する場所の市外局番
- 外線発信番号：0 などの外線につなぐための番号（必要な場合のみ）
- ダイヤル方法：トーン（プッシュ回線の場合）またはパルス（ダイヤル回線の場合）

「モデムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 以下の項目を選択し、「プロパティ」をクリックします。

- モデムモデルの場合 …「Fujitsu LB RWModem V.90 56K J」
- コンボモデルの場合 …「Fujitsu LB Global LTMODEM」

5 次のように設定し、「OK」をクリックします。

- 音量：オンまたは 高
- 最高速度：115200
- 「接続」タブの「トーンを待ってからダイヤルする」のチェックを外す

6 すべてのダイアログボックスを閉じます。

7 本パソコンを再起動します。

モデムモデルとコンボモデルで「携帯電話／ PHS 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL101/102）」を使用して移動体通信を行う場合は、「携帯電話／ PHS 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL101/102）を使用した移動体通信」（→ P.96）をご覧ください。

モデムモデル（PDC コネクタ付き）で「携帯電話接続ケーブル（FMV-NCBL92）」を使用して携帯電話で移動体通信を行う場合は、「携帯電話接続ケーブル（FMV-NCBL92）を使用した移動体通信（モデムモデル（PDC コネクタ付き））」（→ P.95）をご覧ください。

タッチパネルの調整（〔MC〕タッチパネルモデル）

ペンで画面をタッチした位置とマウスポインタの位置がずれている場合は、ペンのタッチ位置調整を行ってください。

調整方法

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu Touch Panel」→「補正ツール」の順にクリックします。
白い補正画面が表示されます。

2 添付のペンで画面の赤い「＋」マークの近くをタッチし、タッチしたままペンを十字の中心に移動して、ペンをタッチパネルから離します。
このとき↖の位置は調整には無関係です。十字からずれていてかまいません。ペンでタッチして離した位置によって調整が行われます。
【Tab】キーを押して↖を表示しないようにすることもできます。
タッチすると「＋」マークが移動します。

3 同様に、順にすべての点をタッチします。

POINT

- ペンの先を「＋」マークの交点に合わせて、正確にタッチしてください。
- 操作中は、手などがタッチパネルに触れないようにしてください。
- 続けて 2 回タッチした場合は、【←】【→】【↑】【↓】キーを押して「＋」マークを移動し、もう一度タッチしてください。

4 【Enter】キーを押します。
調整結果を確認する画面が表示されます。

POINT

- 「補正点が不正です。再入力して下さい。」と表示されたら、「OK」をクリックし、手順 2 からやり直してください。

5 画面の四隅や中央部分をなぞり、正しく調整されているか確認します。
再度調整する場合は、【Fn】キーを押しながら【←】キーを押し、手順 2 からやりなおしてください。

6 正しく調整されたら、【Enter】キーを押します。
「補正ツール」が終了します。
これで、タッチパネルが調整されました。

留意事項

- タッチパネル調整後もペンでタッチした位置とマウスポインタの位置のずれが大きい場合は、ドライバーズ CD の中のタッチパネルドライバをインストールして、再度タッチパネルの調整をしてください。
- アイコンを右クリックするには、次の方法があります。
  - 【▤】（アプリケーション）キーを押す
    1 右クリックしたいアイコンの近くにペンを軽く押し付けます。
    2 アイコンの上までドラッグしてペンを移動します。
    3 【▤】（アプリケーション）キーを押します。
  - 【Ctrl】キーを押す

    次の 2 種類の方法があります。
    - 【Ctrl】キーを押しながらタッチする。
    - 【Ctrl】キーを一度押してからタッチする。

    設定方法は次のとおりです。
    1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Fujitsu Touch Panel」→「タッチパネルの設定」の順にクリックします。
    2 「つかう」をチェックし、「OK」をクリックします。
- タスクバーのアイコンが表示されない場合はクイックポイント IV で操作してください。
- タッチパネル調整を行ったあと、タスクバーに「タッチパネル補正ツール」のタスクが残ることがあります。タッチパネルの調整は終了していますので、「タッチパネル補正ツール」をクリックして表示を消してください。

2 ユーザー登録と起動ディスクのコピー

セットアップが終了したら、ユーザー登録と、〔MC〕は起動ディスクのコピーを行ってください。

ユーザー登録を忘れずに

本パソコンが使用できる状態になったら、添付のユーザー登録カードに必要事項を記入し、投函してください。
ユーザー登録カードは、弊社やソフトウェア会社が自社製品のユーザーを把握し、さまざまな情報を提供する際に利用するものです。
ソフトウェアのバージョンアップ（ソフトウェアの機能を強化し、版数を上げること）時や電話相談などには、ユーザー登録をしていることが条件ですので、忘れずに投函してください。

Windows98 起動ディスクを作成してください（〔MC〕）

〔MC〕に添付されている「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」には、MS-DOS 上で動作するツール類（エディタなど）は含まれていません。不測の事態に備えて、なるべく早く「Windows98 起動ディスク」を作成してください。
「Windows98 起動ディスク」の作成には、2HD のフロッピーディスクが 2 枚必要になります。あらかじめ用意してから、「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」アイコンで「起動ディスク」タブの「ディスクの作成」をクリックし、表示されるメッセージに従って作成してください。

リカバリ CD-ROM 起動ディスクのコピー（〔MC〕）

〔MC〕に添付されている「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」には、リカバリ（→ P.58）に必要なファイルが含まれています。このディスクは、リカバリ時だけでなく、本パソコンが起動しなくなったときの起動ディスクとしても、使用できます。
次のものを用意してください。

- リカバリ CD-ROM 起動ディスク
- リカバリ CD-ROM 起動ディスクのラベル
- 1.44MB フォーマット済 2HD フロッピーディスク 1 枚（購入してください）
- コネクタボックス
- オプションのフロッピーディスクドライブ（別売）

コピー方法

〔MC〕の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を次の方法でコピーし、原本を保管用として普段はコピー（複製）を使用してください。

POINT

- FDD ユニット（USB）をお使いの場合は、フロッピーディスクドライブが「A:」ドライブ以外に割り当てられることがあります。

1 必要に応じてオプションをパソコン本体に取り付けます（→『ハードウェアガイド』、『オプションのマニュアル』参照）。

2 Windows98 を起動します。

3 添付されている「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

4 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。
「マイコンピュータ」ウィンドウが表示されます。

5 「3.5 インチ FD（A:）」アイコンを右クリックし、「ディスクのコピー」をクリックします。
「ディスクのコピー」ダイアログボックスが表示されます。

6 コピー元とコピー先に「3.5 インチ FD（A:）」が選択されていることを確認し、「開始」をクリックします。
メッセージに従ってコピーを作成してください。

7 コピーが終了したら「閉じる」をクリックします。

8 コピーしたフロッピーディスクに、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」と印刷されたラベルを貼り、書き込み禁止の状態にします。
ラベルには「作業用」と記入し、お使いのパソコンの機種名を記入しておくことをお勧めします。

ポータブル CD-ROM ドライブを使用するための設定

〔MC〕の「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」は、あらかじめ FMV-NCD402/403 をお使いになれる設定になっています。

重 要

- FDD ユニット（USB）をお使いの場合には、以降の各操作を行う前に、BIOS の設定を変更してください（→『ハードウェアガイド』参照）。
  - ・「メイン」メニュー内
    フロッピーディスク A：使用しない
  - ・「詳細」メニュー内
    その他の内蔵デバイス設定
    ・フロッピーディスクコントローラ：使用しない
    USB 設定
    ・USB フロッピーディスク：使用する

  なお、すべての作業を終えたら、必ず BIOS の設定を変更してください。
  - ・「メイン」メニュー内
    フロッピーディスク A：144/1.2 MB 3.5’
  - ・「詳細」メニュー内
    その他の内蔵デバイス設定
    ・フロッピーディスクコントローラ：使用する
    USB 設定
    ・USB フロッピーディスク：使用しない

FMV-NCD402/403 を使用する場合（〔MC〕以外）

〔NA〕〔NU〕〔MF〕でポータブル CD-ROM ドライブを使用する場合は、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を作成する必要があります。
あらかじめ作成用のフロッピーディスクを 1 枚用意してください。
作成方法は次のとおりです。

1 必要に応じてオプション品をパソコン本体に取り付けます（→『ハードウェアガイド』、『オプション品のマニュアル』参照）。

2 「ドライバーズ CD」をセットします。

3 「スタート」ボタン→「プログラム」→「MS-DOS プロンプト」の順にクリックします。
「MS-DOS プロンプト」ウィンドウが表示されます。

4 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
[CD-ROMドライブ]:¥fjuty¥mkfd.bat　[CD-ROMドライブ]:
```

「リカバリ起動ディスクを作成します」と表示されます。

5 何かキーを押します。
「新しいディスク　ディスクドライブ A：に入れてください」と表示されます。

6 作成用のフロッピーディスクをセットし、【Enter】キーを押します。
しばらくすると、「ボリュームラベルを入力してください」と表示されます。

7 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
```
WIN_OPK
```
「別のディスクをフォーマットしますか？」と表示されます。

8 【N】キーを押したあと、【Enter】キーを押します。
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の作成が始まります。
しばらくすると「リカバリ起動ディスクの作成が終了しました」と表示されます。

9 右上の×をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」は書き込み禁止の状態にしてお使いください。

その他のポータブル CD-ROM ドライブを使用する場合

〔MC〕以外は、以下の設定を行う前に、「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を作成する必要があります。あらかじめ「FMV-NCD402/403 を使用する場合（〔MC〕以外）」（→ P.17）の操作を行ってください。
〔MC〕は、コピーした「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を使用して設定を行ってください。

1 作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を書き込み可能の状態にします。

2 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」から不要なファイルを削除します。
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」に入っている次の FMV-NCD402/403 関連のファイルを削除します。
```
ATAKMGR.SYS
KMEKATCD.SYS
```

3 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」にファイルをコピーします。
ポータブル CD-ROM ドライブに添付されているフロッピーディスクから、ドライバをコピーします。コピーするファイルについては、ポータブル CD-ROM ドライブに添付されているマニュアルなどをご覧ください。

4 Config.sys を修正します。
「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」の「A:¥Config.sys」の該当箇所（XXXXX）を使用するドライバ名に変更してください。
```
REM  [CD-ROM Driver]
DEVICE=XXXXX.SYS
DEVICE=XXXXX.SYS  /D:OEMCD001
```

作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」を書き込み禁止の状態にしてお使いください。

3 プレインストール仕様

Windows98 セットアップが終了した時点での本パソコンの環境は、次のとおりです。

POINT

- 各ドライバおよびソフトウェアの使用方法についてはヘルプまたはReadme.txtなどの説明ファイルをご覧ください。

ソフトウェア一覧

プレインストールソフト

名称	備考
Microsoft Windows 98 operating system SECOND EDITION 4.10.2222A	操作方法など詳細については、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプか、添付されている『Microsoft® Windows® 98 ファーストステップガイド』をご覧ください。
Internet Explorer 5.01	WWW ブラウザです。
Microsoft IME98	日本語入力変換ユーティリティです。
Windows 98 ツール	Windows98 に添付されているツール類が C:¥Tools に格納されています。使用方法については、フォルダ内の説明ファイルなどをご覧ください。
DirectX7.0a	マルチメディアの機能を拡張します。DirectX7.0a に対応したソフトウェアの高速表示・高品位音声再生を実現します。
PMSet98（〔NA〕〔NU〕〔MC〕）	省電力を設定し、バッテリを効率的に運用・管理します。
BATTERYAID（〔MF〕）	省電力を設定し、バッテリを効率的に運用・管理します。
Intel SpeedStep（FMV-6750NA7/B、FMV-6650NU7/L、FMV-6600NU7/L、FMV-6600MF7/X）	電源の状態（AC アダプタまたはバッテリ）によってCPUのクロックの周波数を落とすと共にCPU動作電圧を落とすことで、消費電力を低下させます。
Windows 環境調査ツール（FM Advisor）	本パソコンの使用環境を調査します。また、動作環境取得ツールとしても使用できます。
Acrobat Reader	PDF（Portable Document Format）書類を表示、閲覧、印刷できます。
Intellisync	赤外線通信を行うことができます。

名称	備考
3 モードフロッピーディスクドライバ	1.44MB、1.2MB、720KB の DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクを読み書きできる 3 モード対応のフロッピーディスクドライブ用のドライバです。
フロッピーディスクドライブクリーニングユーティリティプログラム	クリーニングフロッピー（別売）を使い、フロッピーディスクドライブのヘッド（データを読み書きする部分）を清掃します。使用方法については『ハードウェアガイド』をご覧ください。
FMV 診断	ハードウェアの故障箇所を的確に診断します。
FM 一発修正	文字やアイコン表示の異常を修正します。
ソフトウェアライブラリアップデートプログラム	ソフトウェアが使用している MFC（Microsoft Foundation Class）ライブラリのアップデートプログラムです。ソフトウェアを追加インストールした場合は、アップデートプログラムを実行する必要があります（→ P.66）。

カスタムメイドオプションのアプリケーションについては添付の『アプリケーション補足説明書』や各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。
プレインストールソフトは、必要に応じてアンインストールしてください（→ P.25）。

OS 追加プログラム

ご購入時の状態では、以下の Windows98 用の修正プログラムがインストールされています。

名称	概要
シャットダウン修正モジュール	ネットワークドライブを複数割り当てているときに、Windows が終了しない問題を修正します。
ShutdownSupplement	Windows 終了時におけるいくつかの問題を修正したプログラムです。
URL Security アップデートプログラム	悪意な WEB サイトや E-mail を利用してシステムを傷つけクラッシュさせたり不明な CODE が実行されたりすることを防ぐプログラムです。

添付ソフト（未インストール）

インストール方法は、「添付ソフトのインストール」（→ P.71）をご覧ください。

POINT

- 一部のソフトウェアの使用方法についてはヘルプまたはReadme.txtなどの説明ファイルをご覧ください。

名称	備考
・ TouchPad〔NA〕 ・ GlidePoint〔NU〕〔MF〕 ・ クイックポイント IV ドライバ〔MC〕ベースモデル	マウスポインタの機能を拡張します。
ワンタッチボタン設定〔MF〕〔MC〕	ワンタッチボタンを押すだけで、アプリケーションを起動できます。
VirusScan	コンピュータウイルスを検出・駆除します（→ P.28）。
モバイルスイッチャー	LAN などのネットワーク環境で通信を行っているときに、通信設定を簡単に切り替えることができます。
FMKEEPER	パソコンのメモリ、ハードディスクや増設オプションなどの資産の情報を表示したり、パソコンを監視し発生した異常の詳細情報を参照できます。
10 円メールマスター	携帯電話を使用して、インターネットメールの送信／受信できます。
FM-Menu	ボタン式メニューから簡単にアプリケーションを起動できます。また、特定キーの入力や Windows 機能を制限します。
はじめよう！インターネット（@nifty）	インターネットのプロバイダである @nifty に入会できます。
NIFTY MANAGER	パソコン通信用ソフトです。
Softex BayManager〔MF〕	電源を入れたままモバイルマルチベイのユニットを交換できるようにします。

デバイス一覧

デバイス	名称	備考
CD-ROM ※1	〔NA〕 MATSHITA CD-ROM CR-176 ※2 〔NU〕〔MF〕 TEAC CD-224E	
HSFMODEM ※3	Fujitsu PCI Modem Enumerator	
PCMCIA ソケット	〔NA〕 Texas Instruments PCI-1225 CardBus Controller 〔NU〕〔MF〕 Texas Instruments PCI-1420 CardBus Controller 〔MC〕 Texas Instruments PCI-1410 CardBus Controller	
キーボード	106 日本語（A01）キーボード（Ctrl + 英数）	
サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ	〔NA〕 ESS Device Manager ESS Multi-Device Enumerator Maestro DOS Games/FM Devices Maestro MPU401 Devices Maestro Wave/WaveTable Synthesis Devices 〔NU〕 Wave Device for Voice Modem ※6 YAMAHA DS-XG Legacy Sound System YAMAHA DS-XG PCI Audio CODEC 〔MF〕〔MC〕 Intel(r) 82440MX AC'97 Audio Controller - SigmaTel Codec Wave Device for Voice Modem ※6	
ディスクドライブ	〔NA〕 GENERIC IDE DISK TYPE40 GENERIC NEC FLOPPY DISK 〔NU〕 GENERIC IDE DISK TYPE01 GENERIC NEC FLOPPY DISK 〔MF〕〔MC〕 GENERIC IDE DISK TYPE40 GENERIC NEC FLOPPY DISK	
ディスプレイアダプタ	〔NA〕〔NU〕 RAGE MOBILITY-P AGP (Japanese) 〔MF〕〔MC〕ベースモデル Trident Cyber9525DVD PCI/AGP (W98.26) 〔MC〕タッチパネルモデル Trident Cyber9525DVD PCI/AGP (W98.26R)	
ネットワークアダプタ	Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100) ※4 SMC IrCC (Infrared Communications Controller) ダイヤルアップ　アダプタ	プロトコル：TCP/IP クライアント： Microsoft ネットワーククライアント※4

デバイス	名称	備考
ハードディスクコントローラ	〔NA〕〔NU〕 Intel 82371AB/EB PCI Bus Master IDE Controller セカンダリ IDE コントローラ（デュアル FIFO） プライマリ IDE コントローラ（デュアル FIFO） 〔MF〕〔MC〕 Intel 82440MX PCI Bus Master IDE Controller プライマリ IDE コントローラ（デュアル FIFO）	
フロッピーディスクコントローラ	Fujitsu 3-mode Floppy（FMV Series） 標準フロッピーディスクコントローラ	1.44MB/1.2MB/720KB の各容量のフロッピーディスクを読み書きできます。なお、スーパーディスクドライブ装着時は、1.44MB/720KB のフロッピーディスクのみ読み書きできます。
ポート（COM/LPT）	プリンタポート（LPT1） 仮想赤外線 COM ポート 仮想赤外線 LPT ポート 通信ポート（COM1）	
マウス	〔MC〕タッチパネルモデル以外 PS/2 互換マウスポート 〔MC〕タッチパネルモデル Fujitsu Touch Panel (PS/2)	
モデム※4	モデムモデル Fujitsu LB RWModem V.90 56K J Fujitsu SOFT PDC※7 コンボモデル Fujitsu LB Global LTMODEM	V.90/K56flex 対応のモデムです（Fujitsu SOFT PDC 除く）。
モニタ	ラップトップディスプレイパネル 1024 × 768 または 800 × 600※5	解像度：1024 × 768 または 800 × 600※5 色数：High Color（16 ビット） リフレッシュレート：最適
ユニバーサルシリアルバスコントローラ	〔NA〕〔NU〕 Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller USB ルートハブ 〔MF〕〔MC〕 Intel 82440MX PCI to USB Universal Host Controller USB ルートハブ	
赤外線	赤外線通信デバイス	

※1：内蔵 CD-ROM ドライブユニットをマルチベイに取り付けた場合
※2：モデルによっては、次のように表示されます。
・TOSHIBA CD-ROM XM-7002B
・TOSHIBA CD-ROM XM-7002Bc
※3：モデムモデル
※4：LAN モデル
※5：機種によって違います
※6：モデムモデルとコンボモデル
※7：モデムモデル（PDC コネクタ付）

ドライブ構成

ドライブ	容量	備考
割り当てなし	199 ～ 266MB※	Save To Disk 領域
C	約 2GB	FAT16
D	〔総容量〕－〔C ドライブの容量 + Save To Disk 領域※〕	FAT32
E	CD-ROM ドライブ	CD-ROM 接続時

※：「Save To Disk 領域」（→ P.102）

POINT

- WindowsNTなどのFAT32をサポートしていないOSからは、Dドライブに割り当てられたディスク領域を認識できません。WindowsNT などの OS でこのディスク領域を使用する場合には、D ドライブのバックアップを行ったあと、FDISK コマンドを使用して FAT32 から FAT16 へ設定を変更してください（→ P.61）。
  また、Windows98 では、NTFS に設定されているディスク領域を認識することができません。この場合、FDISK コマンドで FAT16 または FAT32 に設定を変更してください。

Save To Disk 領域

Save To Disk 領域の必要容量には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業領域が必要です。そのため、Save To Disk 領域は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。
詳細については、「Save To Disk 領域」（→ P.102）をご覧ください。

機　種	Save To Disk 領域の容量	最大メインメモリ容量	ビデオメモリ容量・その他	形式
〔NA〕	約 267MB	標準 128MB + 増設 128MB = 256MB	11MB 弱	区画形式
〔NU〕	約 266MB	標準 128MB + 増設 128MB = 256MB	10MB 弱	
〔MF〕	約 266MB	交換時 256MB	10MB 弱	
〔MC〕	約 199MB	標準 64MB + 増設 128MB = 192MB	7MB 弱	

本パソコンでは、メモリを最大に拡張した場合を想定し、最初の設定では上記の容量の Save To Disk 領域が区画形式で作成されています。

アプリケーションのアンインストール

留意事項

アプリケーションをアンインストールする場合は、次の点に気を付けてください。

- アプリケーションをすべて終了してからアンインストールを始める
- DLL ファイルは削除しない

  アンインストール時に次のようなメッセージが表示されることがあります。

  「この DLL は複数のアプリケーションで使用されている可能性があります。削除を行いますか」

  この DLL ファイルを削除すると、他のアプリケーションが正常に動作しなくなることがあります。アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルで、特に指示がない場合は DLL ファイルは削除しないことをお勧めします。

アンインストール方法

一般的に、次の方法があります。

- アンインストール機能を使用する

  アプリケーションにアンインストール機能が用意されている場合があります。
- 「アプリケーションの追加と削除」機能を使用する

  「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」機能を使用してアプリケーションを削除できます。
- ファイルを削除する

  アンインストール機能が用意されていない次の表のアプリケーションについては、ファイルまたはフォルダを削除してください。

名称	削除するファイル名・フォルダ名
Windows 98 ツール	C:¥Tools
FM 一発修正	C:¥Fjuty¥Fmcure

Windows 98 ツールは一度削除すると、リカバリを行わないと復旧できません。

アンインストール方法はアプリケーションによって異なります。詳細は各アプリケーションのマニュアル、ヘルプ、または Readme.txt などの説明ファイルをご覧ください。

第 2 章

快適にお使いいただくために

コンピュータウイルスや、画面の設定方法などについて説明しています。

1 コンピュータウイルス対策 28
2 MS-DOS モードで CD-ROM を利用する 31
3 画面を設定する 32
4 赤外線通信 46
5 省電力 49

1　コンピュータウイルス対策

コンピュータウイルスはプログラムの１つで、何らかの方法でコンピュータ内に読み込まれる（感染する）と、コンピュータウイルス自身で増殖したり、大切なデータを壊したり、コンピュータを起動できなくしたりと、悪影響を及ぼします。

VirusScan

本パソコンにはウイルスを発見するためのソフトとして、VirusScan を添付しています。入手したフロッピーディスクや光磁気ディスクなどは、ウイルスチェックを行ったうえで使用してください。VirusScan の使用方法については、「ドライバーズ CD」の「Vscan」フォルダの「Manuals」フォルダ内にある PDF マニュアルをご覧ください。
VirusScan は、ご購入時にはインストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

POINT

- 「McAfee VShield」を起動していると、アプリケーションのインストールが正常に行われなかったり、ご使用のアプリケーションによっては不具合が発生したりすることがあります。この場合は次のいずれかの方法で「McAfee VShield」を終了してください。
  - 「スタート」ボタン→「プログラム」→「McAfee VirusScan」→「McAfee VirusScan スケジューラ」の順にクリックします。「McAfee VirusScan スケジューラ」ウィンドウで「McAfee VShield」をクリックし、「タスク」メニュー→「終了」の順にクリックします。
  - タスクバーの「McAfee VShield」アイコンを右クリックし、「終了」をクリックします。
- VirusScan でコンピュータウイルス検査を行っているときは、他のアプリケーションを実行したり、検査中のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出したりしないでください。他のアプリケーションを実行するなど、別の操作を行うと、エラーメッセージが表示される場合があります。
- 本パソコンをフロッピーディスクから起動する場合、そのフロッピーディスクがコンピュータウイルスに感染していないかをチェックしてからお使いください。
- VirusScan は、コンピュータウイルスの情報を記載したデータファイル（DAT ファイル）と、検査プログラム（スキャンエンジン）を使用しています。DAT ファイルは次のサイトから無料でダウンロードできます。定期的に更新してください。
  http://www.nai.com/japan/
  スキャンエンジンを更新する場合は、最新版の VirusScan をご購入ください。

コンピュータウイルスを発見した場合

コンピュータウイルスを発見した場合は、被害届けを提出してください。

重 要

- **コンピュータウイルスに感染してしまい、本パソコンの修理が必要になった場合、保証期間内であっても有償修理になる場合があります。ご了承ください。**

コンピュータウイルスの被害届け

コンピュータウイルスの届け出制度は、通商産業省の「コンピュータウイルス対策基準」（平成 2 年 4 月 10 日付通商産業省告示第 139 号／平成 9 年 9 月 24 日改訂通商産業省告示第 535 号）の規定に基づき、平成 2 年 4 月にスタートした制度です。コンピュータウイルスを発見した場合、コンピュータウイルス被害の拡大と再発を防ぐために必要な情報を、情報処理振興事業協会（IPA）に届け出ることとされています。届け出の書式は次ページのとおりです。

〒113-6591
東京都文京区本駒込2-28-8
情報処理振興事業協会
セキュリティセンター
ウイルス対策室　宛
TEL　03-5978-7509
FAX　03-5978-7518
E-mail　virus@ipa.go.jp

（届出書）
住所
会社・団体名
部署
氏名
TEL
FAX
E-mail

コンピュータウイルスの被害（感染・発病）について、下記のとおり届け出ます。

記

1. 発見場所（部署名または個人名）
2. ウイルス名称（内容）　（名称がわからない場合は症状を記載）
3. 発見年月日
　年　月　日
4. 感染機種
　機種　：富士通FMVシリーズ（IBM互換機）
　OS：　□ Windows95　□ Windows98　□ WindowsNT　□ Windows2000
　ネットワーク
　（チェックマークをつけてください。LAN接続以外は、スタンドアロンです）
　：□スタンドアロン（単体）　□LAN接続
5. 発見方法
　ワクチンなどによる定期検査を行っている　⇒頻度（毎日・毎週　回／　毎）
　発見方法（　）
　発見に利用したソフトウェア
　（□ VirusScan for Windows95/98/NT/2000（日本ネットワークアソシエイツ株式会社））
　（□上記以外　⇒名称：　社名：　）
6. 推定される感染経路
　感染元
　□他人から譲渡（国内）　□電子メール（国内）
　□他人から譲渡（国外）　□電子メール（国外）
　□雑誌などの付録　□不明
　□パソコン通信（BBS）　□その他（　）
　□インターネット（ftp site, web site, NetNews）
　媒体
　□フロッピーディスク　□電子メール添付ファイル
　□CD-ROM　□その他（　）
　□ダウンロードファイル
7. 被害状況
　PC　台
　HD　台
　FD　枚
　その他
8. 回復処置
　回復方法（　）
　回復に利用したソフトウェア
　（□ VirusScan for Windows95/98/NT/2000（日本ネットワークアソシエイツ株式会社））
　（□上記以外　⇒名称：　社名：　）
　投入人日
　（　人・　日（0.5日単位で記述））

※ この届出はコンピュータウイルス対策基準（平成9年9月24日付通商産業省告示第535号）の規定に基づいています。届け出られた内容は被害の拡大及び再発の防止に活用しますが、記載されているプライバシーに関する情報を公表することはありません。

2 MS-DOS モードで CD-ROM を利用する

MS-DOS モードで CD-ROM ドライブを使用するための設定を説明します（ポータブル CD-ROM ドライブは該当しません）。

MS-DOS モードで CD-ROM をご使用になる場合

ご購入時はドライバがインストールされていないため、MS-DOS モードで CD-ROM を使用できません。次の手順でドライバをインストールしてください。

POINT

- 設定を行う場合には、下記以外の作業を行わないでください。下記以外の作業を行うと、Windows98 が正常に起動されなくなることがあります。

1 エディタ（メモ帳）などで C:¥Config.sys を開き、次の行の「REM 」を削除します。

```
REM  DEVICE=C:¥REALMODE¥OAKCDROM.SYS  /D:OEMCD001
        ↓
DEVICE=C:¥REALMODE¥OAKCDROM.SYS  /D:OEMCD001
```

2 次の行がない場合は、最後の行に追加して保存します。

```
lastdrive=z
```

3 エディタ（メモ帳）などで C:¥Windows¥Dosstart.bat を開き、次の行の「REM 」を削除して保存します。

```
REM  MSCDEX.EXE  /D:OEMCD001  /L:E
        ↓
MSCDEX.EXE  /D:OEMCD001  /L:E
```

（「/L:E」の「E」には CD-ROM ドライブ名が入ります。）

4 本パソコンを再起動します。

3 画面を設定する

ここでは、ディスプレイの解像度と色数を変更する方法と各機能について説明します。

解像度と色数

本パソコンでは、Windows98 の「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで次の解像度、色数を選択／変更できます。
なお、High Color は 65536 色、True Color は 16777216 色です。
また、CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイの接続方法は『ハードウェアガイド』をご覧ください。

FMV-6750NA7/B

<table>
<tr><th rowspan="2">解像度
（ドット）</th><th colspan="3">色数</th></tr>
<tr><th>液晶ディスプレイ</th><th>液晶ディスプレイ
＋
外部ディスプレイ※2</th><th>外部ディスプレイ※2</th></tr>
<tr><td>640 × 480
800 × 600
1024 × 768</td><td colspan="2">256 色
High Color（16 ビット）
True Color（24 ビット）
True Color（32 ビット）</td><td rowspan="2">256 色
High Color（16 ビット）
True Color（24 ビット）
True Color（32 ビット）</td></tr>
<tr><td>1280 × 1024
1600 × 1200</td><td colspan="2">256 色※1
High Color（16 ビット）※1
True Color（24 ビット）※1
True Color（32 ビット）※1</td></tr>
</table>

※1：仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。このとき、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※2：家庭用テレビでも表示できます。家庭用テレビで表示するときに解像度を 1280 × 1024 以上に設定した場合は、仮想スクリーンモードになります。

FMV-6650NU7/L、FMV-6600NU7/L、FMV-650NU7C/L

解像度（ドット）	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ	外部ディスプレイ※2
640 × 480 800 × 600 1024 × 768	256 色 High Color（16 ビット） True Color（24 ビット） True Color（32 ビット）		
1280 × 1024	256 色※1 High Color（16 ビット）※1 True Color（24 ビット）※1		256 色 High Color（16 ビット） True Color（24 ビット）
1600 × 1200	256 色※1 High Color（16 ビット）※1		256 色 High Color（16 ビット）

※1：仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。このとき、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※2：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により設定されます。

FMV-650NU7C/W

解像度（ドット）	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ	外部ディスプレイ※2
640 × 480 800 × 600	256 色 High Color（16 ビット） True Color（24 ビット） True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色※1 High Color（16 ビット）※1 True Color（24 ビット）※1 True Color（32 ビット）※1		256 色 High Color（16 ビット） True Color（24 ビット） True Color（32 ビット）
1280 × 1024	256 色※1 High Color（16 ビット）※1 True Color（24 ビット）※1		256 色 High Color（16 ビット） True Color（24 ビット）
1600 × 1200	256 色※1 High Color（16 ビット）※1		256 色 High Color（16 ビット）

※1：仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。このとき、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※2：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により設定されます。

FMV-645MF7C/W、FMV-6600MF7/X、FMV-645MC7C/W

解像度（ドット）	色数		
	液晶ディスプレイ	液晶ディスプレイ＋外部ディスプレイ	外部ディスプレイ※3
640 × 480 800 × 600	256 色 High Color（16 ビット） True Color（32 ビット）		
1024 × 768	256 色※1 High Color（16 ビット）※1		256 色 High Color（16 ビット）
1280 × 1024	256 色※2		256 色

※1：FMV-645MF7C/W、FMV-645MC7C/W では仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。この時、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※2：仮想スクリーンモードになります。仮想スクリーンモードでは、液晶ディスプレイサイズの範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。このとき、「モニタ」を解像度以上のサイズに設定する必要があります。

※3：プラグアンドプレイ対応の外部ディスプレイを使用の場合、最大解像度は外部ディスプレイからの情報により設定されます。

留意事項

■〔NA〕〔NU〕の場合

- スクリーンセーバー起動中に「モニターの電源を切る」機能や「システムスタンバイ」機能が正しく動作しない場合があります。この場合スクリーンセーバーか省電力機能のいずれかを無効にしてください。
- マウスポインタが矢印の表示に戻らないことがあります。このような場合は、マウスポインタをいったんタスクバーへ移動してください。
- CD-ROM　読み取りエラーなどの表示画面が正常に表示されない場合がありますが、Windows 画面に復帰後は正常に表示されます。
- DirectX を使用したアプリケーションの一部で、表示が乱れる場合があります。
- 「模様」の設定を「カギ穴」にすると模様が正しく表示されない場合があります。
- 次の解像度を選択した場合は、Windows98の画面が通常表示または全画面表示に変更できます（→ P.97）。【Fn】キー＋【F5】キーで変更することもできます。
  - 〔NA〕〔NU（FMV-650NU7C/W 以外）〕：800 × 600 ドット以下
  - FMV-650NU7C/W：640 × 480 ドット
- 外部ディスプレイとして CRT ディスプレイを接続した場合は、「画面のプロパティ」ダイアログボックスでリフレッシュレートを 85Hz 以上に設定できるように見えますが、実際の CRT ディスプレイの周波数は次のとおりです。
  - CRT ディスプレイのみの場合：
    1280 × 1024 ドット以下　60Hz ～ 85Hz
    1600 × 1200 ドット　60Hz
  - 同時表示の場合：60Hz

- Active Desktop を ON に設定し、色数を High Color（16 ビット）に設定した場合、ウィンドウの模様（デイジーなど）が正常に表示されないことがあります。この場合は、色数を High Color（16 ビット）以外に設定するか、Active Desktop を OFF に設定してください。

■〔MF〕〔MC〕の場合

- 色数を True Color（32 ビット）に設定した場合、次の操作による液晶ディスプレイの全画面表示は使用できません。
  - 【Fn】キー＋【F5】キーを押す
  - 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで「詳細」をクリックし、「フラットパネル」タブの「ディスプレイストレッチ」をチェックする
- 次の解像度を選択した場合は、Windows98の画面が液晶ディスプレイ中央部に小さく表示されます。【Fn】キー＋【F5】キーで全画面表示にすることができます。
  - FMV-6600MF7/X：800 × 600 ドット以下
  - FMV-645MF7C/W〔MC〕：640 × 480 ドット
- True Color 表示ではディザリング機能を使用して液晶ディスプレイに表示しています。
- 〔MC〕タッチパネルモデルでは、画面の解像度を 640 × 480 ドットにするとタッチパネルの応答が悪くなることがあります。その場合は、色数を True Color（32 ビット）に設定してください。

表示装置を切り換える

表示装置の切り換え方法は次のとおりです。なお、表示装置をあらかじめ取り付けてから、切り換えを行ってください（→『ハードウェアガイド』参照）。

留意事項

- 表示装置の切り換えの設定は次のようになります。
  - Windows98 が起動していない場合は、BIOS セットアップの設定が有効
  - Windows98 起動中は「RAGE MOBILITY-P AGP (Japanese) のプロパティ」ダイアログボックス（〔NA〕〔NU〕）または「表示デバイス」タブ（〔MF〕〔MC〕）の設定が有効（Windows98 を再起動後も有効）
  - 【Fn】キー＋【F10】キーで切り換えた表示装置の設定は、「RAGE MOBILITY-P AGP (Japanese) のプロパティ」ダイアログボックス（〔NA〕〔NU〕）または「表示デバイス」タブ（〔MF〕〔MC〕）の設定に反映されます。
  - 「RAGE MOBILITY-P AGP (Japanese) のプロパティ」ダイアログボックス（〔NA〕〔NU〕）または「表示デバイス」タブ（〔MF〕〔MC〕）を表示中に【Fn】キー＋【F10】キーで表示装置を切り換えても、「RAGE MOBILITY-P AGP (Japanese) のプロパティ」ダイアログボックス（〔NA〕〔NU〕）または「表示デバイス」タブ（〔MF〕〔MC〕）の表示には反映されません（一度ダイアログボックスを閉じ、再度表示させると反映されています）。
  - Windows98 が起動すると、表示されるディスプレイは、前回 Windows98 で使用していた状態になります。ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合は、液晶ディスプレイに表示されます。
- 液晶ディスプレイ＋外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、外部ディスプレイ画面は液晶ディスプレイ画面と同一の解像度になります。

- 解像度の切り換え時などに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示を選択した場合、液晶ディスプレイの表示が乱れることがあります。このときは、「画面のプロパティ」ダイアログボックスで、色数を変更してください。
- 外部ディスプレイまたは液晶プロジェクタによっては、液晶ディスプレイ+外部ディスプレイの同時表示時に、画面が正しく表示されないことがあります。
- 外部ディスプレイで液晶ディスプレイ以上の高解像度を利用するには、それらの解像度を表示可能な外部ディスプレイが必要です。
- 液晶プロジェクタを本パソコンの液晶ディスプレイと同時表示で使用する場合、本パソコンの液晶ディスプレイと同じ解像度を表示可能な液晶プロジェクタが必要です。
- 〔NA〕で、DVD やビデオ CD などの動画再生画面を家庭用テレビなどに表示する場合は、家庭用テレビのみに表示する設定にしてください。設定は、Windows98 の「画面のプロパティ」ダイアログボックスで行います（→ P.36）。

【Fn】+【F10】キーを使用する場合

表示装置を切り換えるには、【Fn】キーを押しながら【F10】キーを押します。表示装置は次の順に切り換わります（このとき【F10】キーを、間隔を空けて押してください）。

液晶ディスプレイ → 外部ディスプレイ → 液晶ディスプレイ + 外部ディスプレイ（同時表示）→ 液晶ディスプレイ…

POINT

- 〔NA〕で家庭用テレビに切り換える場合は、「画面のプロパティ」ダイアログボックスで操作してください。

「画面のプロパティ」ダイアログボックスを使用する場合

1 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブで「詳細」をクリックします。

2 次の画面で表示装置を選択します。

〔NA〕〔NU〕「ATI 画面」タブ
〔MF〕〔MC〕「表示デバイス」タブ

POINT

▶ 〔NA〕〔NU〕で表示装置の切り換えを行う場合は、次の手順に従って操作してください。

- 液晶ディスプレイと外部ディスプレイと家庭用テレビ（〔NA〕）で同時に表示する
  1 緑色の「 」をクリックして、「モニタ」と「パネル」と「テレビ」（〔NA〕）の「 」を押された状態にします。
  2「モニタ」と「パネル」をプライマリ「 」に、「テレビ」（〔NA〕）をセカンダリ「 」に設定します。
- 〔NA〕で液晶ディスプレイ、外部ディスプレイおよび家庭用テレビのうち、いずれか2台を同時に表示する
  1 緑色の「 」をクリックして表示するディスプレイの「 」を押された状態にし、表示しないディスプレイの「 」を押されてない状態にします。
  2「モニタ」と「パネル」をプライマリ「 」に、「テレビ」をセカンダリ「 」に設定します。
- 液晶ディスプレイのみ、外部ディスプレイのみ、または家庭用テレビのみ（〔NA〕）で表示する
  1 緑色の「 」をクリックして、「モニタ」と「パネル」と「テレビ」（〔NA〕）の「 」を押された状態にしてから、表示しないディスプレイの「 」をクリックします。
  2 表示するディスプレイがセカンダリになっている場合は「 」をクリックし、チェックを外します。

3 「OK」をクリックします。

ローテーション機能を使う（〔MC〕タッチパネルモデル）

「ローテーション機能」を使うとデスクトップの画面を縦横に変更できます。

留意事項

- 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【R】キーを押すと、現在の状態から 180 度回転します。
- ローテーション機能使用中は、画面の解像度や色数を変更しないでください。解像度と色数を変更する場合は、画面を元の状態（角度）に戻してから変更してください。
- ローテーション機能使用中に、壁紙の表示位置がずれることがあります。この場合は、壁紙の上で右クリックし、表示されるメニューから、「最新の情報に更新」をクリックしてください。正しい表示に戻ります。
- ローテーション機能使用中は、アプリケーションによっては正常に動作しなかったり、表示速度が遅くなる場合があります。
- Windows98 の起動中、終了中はローテーション機能が無効になります。
- ローテーション機能をお使いの場合、マウスの動きは以下のようになります。
  - PS/2 マウスは、パソコン本体前面から見ている場合にお使いになれます。
  - USB マウスは、お使いになる方向から画面を見て、マウスポインタが の向きになっている場合に、お使いになれます。

画面の角度を変更する

重 要

- ローテーション機能を使う前に使用中のアプリケーションを終了してください。

1. デスクトップの何もないところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックします。
3. 「詳細」をクリックします。
4. 「ローテーション」タブをクリックし、「左回り」「右回り」をクリックして画面の角度を変更します。
   「右回り」をクリックすると右方向へ、「左回り」をクリックすると左方向に 90 度ずつ画面が回転します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。

マルチモニタ機能を使う

本パソコンには、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイや家庭用テレビ（〔NA〕）で、1 つのデスクトップを表示できる「マルチモニタ機能」があります。ここではプライマリアダプタ（メイン画面）として液晶ディスプレイを、セカンダリアダプタ（サブ画面）として外部ディスプレイや家庭用テレビ（〔NA〕）を使用する場合の手順を説明します。

設定方法（〔NA〕〔NU〕）

重 要

- 〔NU〕では TV を外部ディスプレイとして使用することはできません。
- マルチモニタ機能を使う前に使用中のアプリケーションを終了してください。

1. 本パソコンの電源を切ります。
2. 本パソコンに外部ディスプレイを接続し、ディスプレイの電源を入れます。
3. 本パソコンの電源を入れます。
4. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

5 「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。

「RAGE MOBILITY-P AGP（Japanese）のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

6 「ATI 画面」タブをクリックします。

POINT

- 「RAGE MOBILITY-P AGP（Japanese）のプロパティ」ダイアログボックスでは、「外部ディスプレイ」を「モニタ」、「液晶ディスプレイ」を「パネル」と表示しています。

7 「パネル」の「 」のみが押された状態にします。

「モニタ」と「パネル」の「 」が押された状態になっているときは、「モニタ」の「 」をクリックしてください。

表示装置の表示／非表示を切り換えます。
プライマリアダプタを設定します。

8 「パネル」の「 」がプライマリであることを確認します。

セカンダリになっている場合は「 」をクリックし、チェックを外します。

POINT

- 「 」が緑色のときは表示装置が操作できる状態であることを、灰色のときは操作できない状態であることを示しています。
- 「モニタ」と「パネル」の「 」を押された状態にし、両方の「 」をプライマリに設定すると同時表示になります。

9 設定が終了したら、「適用」をクリックします。

10 「設定は適用されました。新しい設定を保存しますか？」と表示されたら、「はい」をクリックします。

11 「RAGE MOBILITY-P AGP（Japanese）のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスに戻ります。

12 マルチモニタ機能を使用時に表示できる色数と解像度を参照し、プライマリアダプタの解像度と色数を変更します（→ P.42）。

13 「適用」をクリックします。

POINT

- 再起動メッセージが表示された場合は、「キャンセル」または「いいえ」をクリックし、再起動しないようにしてください。他のダイアログボックスが表示された場合は、「OK」または「はい」をクリックしてください。

14 「2」と書かれたディスプレイイラストを右クリックし、「使用可能」をクリックします。

POINT

- 「互換性の警告」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックしてください。
- 「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブでは、プライマリアダプタは「1」、セカンダリアダプタは「2」と表示されます。

15 マルチモニタ機能を使用時に表示できる色数と解像度を参照し、セカンダリアダプタの解像度と色数を変更します（→ P.42）。

16 「適用」をクリックします。

POINT

- 再起動メッセージが表示された場合は、「キャンセル」または「いいえ」をクリックし、再起動しないようにしてください。他のダイアログボックスが表示された場合は、「OK」または「はい」をクリックしてください。
- プライマリアダプタとセカンダリアダプタは同じ色数に設定してください。
- プライマリアダプタ、セカンダリアダプタはHigh Colorもしくは True Colorのいずれかに設定してください。256 色に設定すると正しく表示されないことがあります。
- プライマリアダプタとセカンダリアダプタにまたがるウィンドウなどがあるときは、解像度と色数の設定や表示装置など、画面の設定を変更しないでください。

設定方法（〔MF〕〔MC〕）

重 要

- マルチモニタ機能を使う前に使用中のアプリケーションを終了してください。
- 現在、画面が表示されているディスプレイがプライマリアダプタになります。
  ただし同時表示の場合は、液晶ディスプレイがプライマリアダプタになります。
- 「1」はプライマリアダプタ、「2」はセカンダリアダプタを示します。

1. Windows98 を終了し、MAIN スイッチを OFF にします。
2. 本パソコンに外部ディスプレイを接続し、ディスプレイの電源を入れます。
3. 本パソコンの MAIN スイッチを ON にします。
4. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
5. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで「 2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックします。
   「モニタ＃ 2」ウィンドウが表示されます。
6. 「はい」をクリックします。
7. マルチモニタ機能を使用時に表示できる色数と解像度を参照し、セカンダリアダプタの解像度と色数を変更します（→ P.43）。
8. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「OK」をクリックします。

アダプタの表示位置を変更する

ここでは使用する 2 つのアダプタの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

1. デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
   「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
2. 「設定」タブをクリックします。
3. ディスプレイイラストをドラッグして変更したい位置に設定します。
4. 「OK」をクリックします。

表示できる色数と解像度

下表の解像度以外を選択した場合、画面が正しく表示されないことがあります。

■〔NA〕の場合

色数	プライマリの解像度	セカンダリの解像度					
		640 × 480	800 × 600	1024 × 768	1280 × 1024	1400 × 1050	1600 × 1200
High Color（16 ビット）	640 × 480	○	○	○	○	○	○
	800 × 600	○	○	○	○	○	○
	1024 × 768	○	○	○	○	○	○
	1280 × 1024	○	○	○	○	○	○
	1400 × 1050	○	○	○	○	○	○
	1600 × 1200	○	○	○	○	○	○
True Color（24 ビット）	640 × 480	○	○	○	○	○	○
	800 × 600	○	○	○	○	○	○
	1024 × 768	○	○	○	○	○	○
	1280 × 1024	○	○	○	○	×	×
	1400 × 1050	○	○	○	×	×	×
	1600 × 1200	○	○	○	×	×	×
True Color（32 ビット）※1	640 × 480	○	○	○	○	○	×
	800 × 600	○	○	○	○	○	×
	1024 × 768	○	○	○	×	×	×
	1280 × 1024	○	○	×	×	×	×
	1400 × 1050	○	○	×	×	×	×
	1600 × 1200	×	×	×	×	×	×

※：True Color（32 ビット）で表示する場合は、液晶ディスプレイを「プライマリ」に設定してください。

■〔NU〕の場合

色数	プライマリの解像度	セカンダリの解像度			
		640 × 480	800 × 600	1024 × 768	1280 × 1024
High Color（16 ビット）	640 × 480	○	○	○	○※
	800 × 600	○	○	○	○※
	1024 × 768	○	○	○	×
	1280 × 1024	○※	○※	×	×
True Color（24 ビット）	640 × 480	○	○	○	×
	800 × 600	○	○	○	×
	1024 × 768	○	○	×	×
	1280 × 1024	×	×	×	×
True Color（32 ビット）	640 × 480	○	×	×	×

※：1280 × 1024 ドット以上の解像度を表示できるディスプレイを接続した場合でも、1152 × 868 ドットの仮想スクリーンモードになります。

■〔MF〕〔MC〕の場合

色数	プライマリの解像度	セカンダリの解像度			
		640 × 480	800 × 600	1024 × 768	1280 × 1024
High Color（16 ビット）	640 × 480	○	○	○	×
	800 × 600	○	○	○	×
	1024 × 768	○	○	×	×
True Color（32 ビット）	640 × 480	○	×	×	×

留意事項

■〔NA〕〔NU〕の場合

- 選択した解像度によっては仮想スクリーンモードになる場合があります。
- プラグアンドプレイ対応の表示装置を使用の場合、最大解像度は液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。
- プラグアンドプレイ非対応の表示装置を使用の場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は外部ディスプレイの最大解像度になります。
- 「画面のプロパティ」ダイアログボックスで各設定をしたあと、「詳細」をクリックすると「ATI 画面」タブと「ATI 色」タブが表示されないことがあります。この場合はダイアログボックスを一度閉じてから、もう一度ダイアログボックスを開いてください。
- マルチモニタ機能使用時には、DVD を再生しないでください。
- 次の事項はプライマリアダプタの画面でのみ表示されます。
  - 液晶ディスプレイの全画面表示
  - MS-DOS プロンプトのフルスクリーン表示
  - 一部のスクリーンセーバー

- 液晶ディスプレイをセカンダリアダプタに設定した状態でWindows98を再起動した場合、液晶ディスプレイがプライマリアダプタとして表示されることがあります。この場合以下の手順に従ってください。
  1「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブをクリックします。
  2「2」と表示されたディスプレイイラスト上で右クリックし、「使用可能」のチェックを外します。
  3「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。
  液晶ディスプレイをセカンダリアダプタとして使用する場合は、再度設定を行ってください。
- モニタのリフレッシュレートを 60Hz 以上に設定した場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタのいずれか、または両方が仮想スクリーン表示となる場合があります。この場合は以下の手順に従ってください。
  1「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「設定」タブをクリックし、「詳細」をクリックします。
  2「アダプタ」タブにある「リフレッシュレート」を「最適」にしてください。
- マルチモニタ機能使用時に本パソコンを再起動した場合、使用している外部ディスプレイによっては、画面が正常に表示されないことがあります。このような場合には、外部ディスプレイの周波数を 85Hz 以下に設定してください。
- 〔NU〕では、マルチモニタ機能使用時には、【Fn】+【F10】キーを使用して、表示装置を切り換えることはできません。
- セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーション起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了させないでください。アプリケーションおよび Windows98 の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。

■〔MF〕〔MC〕の場合

- 2 つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプタとセカンダリアダプタの設定を変更しないでください。
- マルチモニタ機能使用時には、DVD を再生しないでください。
- 以下の事項はプライマリアダプタのみで表示されます。
  - 液晶ディスプレイの全画面表示
  - 一部のスクリーンセーバー
  - 動画再生画面のフルスクリーン表示
- アクティブデスクトップに設定されたまま解像度や色数を変更すると、正常に変更できない場合があります。変更前に、次の手順に従ってアクティブデスクトップの設定を解除します。「スタート」ボタン→「設定」→「アクティブデスクトップ」→「Web ページで表示」の順にクリックしてチェックマークを外すと、アクティブデスクトップが解除され、Windows98 の標準画面に切り替わります。
  解像度や色数を変更したあと、チェックマークを付けてアクティブデスクトップに設定し直してください。
- プライマリアダプタとセカンダリアダプタで、別々の色数を設定しないでください。
- High Color（16 ビット）または True Color（32 ビット）に設定してください。256 色に設定すると、正しく表示されないことがあります。
- プラグアンドプレイ対応のディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイもしくは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度に設定されます。

- プラグアンドプレイ非対応のディスプレイの場合、液晶ディスプレイと外部ディスプレイの最大解像度は、外部ディスプレイの最大解像度になります。
- セカンダリアダプタは 256 色に設定できません。
- マルチモニタ機能使用時には、【Fn】キー＋【F10】キーを使用して、表示装置を切り換えることはできません。
- セカンダリアダプタのみに表示されているアプリケーション起動中に、セカンダリアダプタの使用を終了させないでください。アプリケーションおよび Windows98 の動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- ローテーション機能使用中は、マルチモニタ機能を使用できません。また、マルチモニタ機能を使用時にローテーション機能を使用しないでください。マルチモニタ機能を使用中にローテーション機能を使用すると、画面は回転せず、マルチモニタ機能を終了できなくなります。この場合は、本パソコンを再起動してください。

４ 赤外線通信

ここでは、赤外線通信についてと、赤外線通信用のアプリケーション「Intellisync」（インテリシンク）について説明しています。赤外線通信を行う前にお読みください。

赤外線通信の概要

赤外線通信とは、本パソコンの赤外線通信ポートを使用して、赤外線通信機能を持った他のパソコンと、ケーブルを接続することなく通信できる機能です。
赤外線通信を行う場合は、互いのパソコンの赤外線通信ポートを使用可能に設定し、赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにします。距離は 20 ～ 50cm の範囲内での使用をお勧めします。

留意事項

- 赤外線通信をしているときは､赤外線通信ポートに AC アダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。誤動作の原因になります。
- 互いのパソコンの距離を離しすぎないでください。
- データ転送中は、互いのパソコンを動かさないでください。データ転送が切断される場合があります。
- 次の場合、正常に通信できないことがあります。
  - ワイヤレスマウス添付モデル〔NU〕で、添付のワイヤレスマウスを赤外線通信ポートに向けて操作した場合
  - 互いの赤外線通信ポートが、真正面に向き合っていない場合
  - 互いの赤外線通信ポートの距離が離れすぎていたり、間に遮断物がある場合
  - テレビ、ラジオなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
  - 直射日光や、蛍光灯・白熱灯などの強い光が赤外線通信ポートに当たっている場合
  - 赤外線通信ポートが汚れている場合

Intellisync

本パソコンには、赤外線通信用のアプリケーションとして、「Intellisync」（インテリシンク）がインストールされています。「Intellisync」を使うことにより、2 台のパソコンを赤外線通信アダプタやケーブルで接続し、ファイルの転送などを簡単に行うことができます（→『Intellisync for Notebooks クイック・リファレンス・ガイド（QRG.pdf）』参照）。

留意事項

Intellisync には次の制限事項があります。ご使用になる前によくお読みください。

- Windows98 を終了する前に、必ず Intellisync を終了してください。
- データの通信中に赤外線通信ポートをふさぐなどして通信エラーが発生した場合は、Intellisync をいったん終了し Windows98 を終了させ、電源を切ってから、再度 Intellisync を起動してください。そのまま使用すると、正常に通信できないことがあります。
- Intellisync のシンクロナイズ機能では、ファイル名に全角文字が含まれたファイルを指定すると、正しく動作しない場合があります。
- Intellisync では、ZAURUS との通信はサポートしておりません。
- 「ファイル転送」機能のツールバーにある「一覧」のバルーンヘルプは表示できません。
- 赤外線通信中は、「接続設定マネージャ」ダイアログボックスの「ローカルデバイス」タブの赤外線のプロパティを開いて「IR ウィザード」を行わないでください。
- ドライブとして割り当てられたネットワークコンピュータ名やボリュームラベルに全角の文字が使用されていると正しく表示されない場合があります。
- 「ファイル転送」で接続先が表示されない場合は、次のように設定を変更してください。

  1 「ファイル転送」の「オプション」メニューから「設定」をクリックします。
  2 「セキュリティ」タブをクリックします。
  3 「リソースアクセス」の「ドライブの詳細」を選択します。
  これで設定は終了です。

転送速度について

「Intellisync」を使用すると、最大 4Mbps の速度で通信できます。
転送速度は、通信相手のパソコンにより異なります。

- 115Kbps のパソコンと通信する場合
  自動的に 115Kbps モードで接続されます。
- 4Mbps のパソコンと通信する場合
  自動的に 4Mbps モードで接続されます。

本パソコンで Intellisync を使用する前に

Intellisync を使用する前に、次の項目の設定を確認してください。

■ Windows98 の標準の赤外線デバイスを使用不可の状態にする

1 「コントロールパネル」ウィンドウの「赤外線モニタ」アイコンをダブルクリックします。

2 「オプション」タブの「赤外線通信を使用可能にする」のチェックを外し、「OK」をクリックします。

■ BIOS セットアップの設定を確認する

本パソコンご購入時は、BIOS セットアップは以下のように設定されています。
赤外線通信を正しく行えない場合は、BIOS セットアップの「詳細」メニューの「周辺機器設定」または「シリアル／パラレルポート設定」で、「シリアルポート B」または「赤外線通信ポート」の各項目が次の設定になっているか確認してください。

- シリアルポート B または赤外線通信ポート：使用する
- モード：FIR
- I/O ベースアドレスまたは I/O アドレス：2E8-2EF
- 割り込み番号：IRQ3
- I/O ベースアドレスまたは I/O アドレス：118-11F（〔NA〕以外）
- DMA チャネル：DMA3

■ コンピュータ名を変更する

Intellisync では、同じコンピュータ名どうしで通信を行うことができません。
次の手順で通信相手のコンピュータ名を確認し、必要であればコンピュータ名を変更してください。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Intellisync」→「接続設定マネージャ」の順にクリックします。

POINT

▶ 「Intellisync 使用許諾同意書」が表示されたら「承諾する」をクリックしてください。

2 「閉じる」をクリックします。
「接続設定マネージャ」ダイアログボックスが表示されます。

3 「識別」タブの「コンピュータ名」を確認し、必要であれば変更します。

4 「OK」をクリックします。

5 省電力

本パソコンの省電力について説明します。

スタンバイ／レジューム機能

スタンバイ／レジューム機能とは

スタンバイ／レジューム機能とは、SUS/RES スイッチ（→『ハードウェアガイド』参照）などで本パソコンを一時停止（スタンバイ）したときに、メモリ内のプログラムやデータをそのままの状態で保持し、次に SUS/RES スイッチを押したときに、すぐに作業を再開（レジューム）できる機能です。
スタンバイ／レジューム機能のスタンバイ動作には、次の 2 種類があります。

- **スタンバイモード**
  メモリ内のプログラムやデータは、システム RAM で保持されます。スタンバイ動作中は、状態表示 LCD の ⏻ が点滅します。
  電源は、AC アダプタを接続している場合は AC 電源から、AC アダプタを接続していない場合はバッテリから供給されます。「休止状態」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が短くなります。
- **休止状態**
  メモリ内のプログラムやデータは、ハードディスクの Save To Disk 領域に書き込まれて保存されます。保存が完了すると、パソコン本体の電源が自動的に切れます。電源が自動的に切れるため、「スタンバイ」と比較すると、一時停止／再開にかかる時間が長くなります。

ご購入時は、「スタンバイ」に設定されています。
「休止状態」を使用するには、事前に設定が必要です。詳しくは、「電源の管理のプロパティ」の「休止状態」タブ（→ P.54）をご覧ください。

重 要

- 休止状態では、「電話が鳴ったときにレジュームする」機能はサポートしません。

POINT

- 本書および本パソコン添付のマニュアルで「スタンバイモード」を「スタンバイ状態」、「休止状態」を「Save To Disk 状態」と表記している場合があります。

留意事項

- 次の場合は、スタンバイ／レジューム機能を使用しないでください。
  - Windows98 の終了処理中
  - パソコンが何か処理をしている最中（プリンタ出力中など）、および処理完了直後は、スタンバイ・休止状態に移行させないでください。
  - ハードディスク、フロッピーディスクまたはスーパーディスクにアクセス中
  - モデムで通信中
  - オートラン CD-ROM（セットすると自動で始まる CD-ROM）を使用中
  - ビデオ CD、MPEG1、MPEG2、および DVD を再生中
  - 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中
  - CD-R や CD-RW に書き込みまたは書き換え中
- スタンバイ／レジューム機能を使用する場合、以下の点に気をつけてください。
  - スタンバイまたは休止状態にしたあと、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
  - レジュームする場合は、SUS/RES スイッチを 4 秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを 4 秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作業中のデータが消失します。
  - スタンバイ中に MAIN スイッチを OFF にしないでください。作業中のデータがすべて失われてしまいます。
  - スタンバイ時にはシステム RAM でのデータ保持のために電力を消費します。バッテリ運用の場合は、バッテリ残量に留意してください。スタンバイ中にバッテリが切れると、作業中のデータがすべて失われてしまいます。
  - ネットワーク環境によっては、スタンバイ／レジューム機能を使用できない場合があります。
  - レジューム時に、画面に一瞬ノイズが発生する場合があります。
  - モデムモデルでは、内蔵モデムに着信すると常にレジュームします。レジュームさせたくないときは、モジュラーケーブルをモジュラーコネクタから抜いておいてください。
  - モデム着信によるレジューム後、フラットポイント（マウス）を操作しても画面が表示されないことがあります。表示されない場合は、【Space】キーなどのキーを押してください。
  - 「休止状態」に設定した場合、モデム着信によるレジューム機能は働きません。

POINT

- Windows98 の終了処理中に液晶ディスプレイを閉じてスタンバイさせないでください。Windows98 の終了処理後は、必ず液晶ディスプレイに何も表示されていないことを確認してから、液晶ディスプレイを閉じてください。
- オートラン CD-ROM を使用しているときにスタンバイすると、レジューム時に CD-ROM が二重に起動し、誤動作の原因になります。二重に起動した場合は、CD-ROM のアプリケーションをすべて終了し、CD-ROM をセットしなおしてください。
- ドライバのインストールが必要な周辺機器を接続しているときは、ドライバのインストールが終了するまでスタンバイ／レジューム機能を使用しないでください。

- 次の場合は、スタンバイ機能を使用せず、パソコン本体の電源を切ってください。
  - 長時間お使いにならないとき
    バッテリでのスタンバイ状態（→『ハードウェアガイド』参照）の有効期間（最大約 3 日）を超えて使用しない場合は、データを保存してから Windows98 を終了させ、パソコン本体の電源を切ってください。また、「電源の管理のプロパティ」の設定が「休止状態」のときにスタンバイすると、MAIN スイッチが ON のままで電源が切れます。この場合は、MAIN スイッチを OFF にしてもかまいません。次回 MAIN スイッチを ON にすると再開します。
  - 周辺機器を取り付け／取り外しをするとき
    周辺機器によっては、パソコン本体の電源を切らなくても接続できるものがあります。『ハードウェアガイド』、または周辺機器に添付のマニュアルをご覧ください。
- 次の場合は、スタンバイ／レジューム機能が使用できないことがあります。
  - Windows98 の起動処理中
  - アプリケーションの処理中
  - PC カードやプリンタなどの周辺装置を接続している場合
  - 赤外線通信を使用中

POINT

- **PC カードやプリンタなどの周辺装置を接続した状態で休止状態機能を使用すると、レジューム時に周辺装置の情報が初期化されるため、休止状態前の状態に戻らないことがあります。**

- 別売の LAN カード（弊社の FMV-J182A、FMV-J184B、FMV-J185 など）をお使いになる場合は、AC アダプタを接続し、「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで「電源設定」タブの各項目を「なし」に設定してください。
- お使いになる PC カードによっては、スタンバイ時のデータ保存時間が短くなる場合があります。

スタンバイモードと休止状態への移行方法

本パソコンをスタンバイ、または休止状態へ移行するには、次の方法があります。

POINT

- **以下の場合は、本パソコンはスタンバイしないことがあります。**
  - **Windows98 の起動中**
  - **接続している周辺機器のドライバが正しくインストールされていないとき**
- **本パソコンの使用条件により、スタンバイに時間がかかる場合があります。**

■ SUS/RES スイッチを押す

状態表示 LCD（→『ハードウェアガイド』参照）の や などが消えていることを確認し、SUS/RES スイッチを押します。

状態表示 LCD のが点滅し、本パソコンはスタンバイ状態になります。

重 要

- **SUS/RES スイッチは 4 秒以上押さないでください。SUS/RES スイッチを 4 秒以上押すと、本パソコンの電源が切れ、作成中のデータが失われることがあります。**

POINT

- 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「休止状態」タブで「休止状態をサポートする」を設定していない場合は、「休止状態をサポートする」をチェックしてください。

■ 液晶ディスプレイを閉じる

状態表示 LCD（→『ハードウェアガイド』参照）の や などが消えていることを確認し、液晶ディスプレイを閉じます。
カバークローズスイッチ（→『ハードウェアガイド』参照）により、本パソコンはスタンバイ状態になります。

POINT

- 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「詳細」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定を「スタンバイ」以外にした場合は、液晶ディスプレイを閉じても本パソコンはスタンバイしません。
  また、この場合は液晶ディスプレイを閉じないでください。

■「Windows の終了」ダイアログボックスから移行させる

1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。

2 「Windows の終了」ダイアログボックスで移行したい状態を選択し、「OK」をクリックします。

POINT

- SUS/RES スイッチを押したとき、または液晶ディスプレイを閉じたときの動作は、スタンバイにするか休止状態にするかを「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで設定することができます。
  ご購入時は、スタンバイに設定されています。

レジューム方法

本パソコンをレジュームさせるには、次の 2 つの方法があります。

POINT

- 本パソコンをスタンバイし、再度レジュームさせる場合は、10 秒ほど待ってから操作してください。
- 本パソコンの使用条件により、レジュームに時間がかかる場合があります。
- レジュームしないときは、MAIN スイッチが OFF になっていないか確認してください。

■ SUS/RES スイッチを押す

SUS/RES スイッチを押すと、状態表示 LCD の が常時表示になり、本パソコンは動作状態になります。

POINT

- SUS/RES スイッチは 4 秒以上押し続けないでください。4 秒以上押すと、本パソコンの電源が切れます。

■ **液晶ディスプレイを開く（カバークローズスイッチを使用してスタンバイしたとき）**
カバークローズスイッチ（→『ハードウェアガイド』参照）により、本パソコンがレジュームします。

POINT

- SUS/RES スイッチまたは「Windows の終了」ダイアログボックスでスタンバイした場合は、液晶ディスプレイを開いてもレジュームしません。
- 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「詳細」タブで「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定を「スタンバイ」以外にした場合は、本パソコンはレジュームしません。

ご購入時の節電の設定

本パソコンご購入時には、バッテリで使うときに節電されるように設定されています。
節電の設定は、通常お使いになるうえでは、変更する必要はありません。変更する場合は、Windows98 の「電源の管理」を使います。

重 要

- Windows98 動作中は、BIOS セットアップでの省電力設定ではなく、「電源の管理のプロパティ」での省電力設定が有効になります。

「電源の管理のプロパティ」での設定

Windows98 では「コントロールパネル」ウィンドウの「電源の管理」により、本パソコンを使用中にスタンバイまたは休止状態にしてバッテリ消費を低減させるように設定するなど、本パソコンの電源を管理することができます。

設定を変更する

■ **「電源設定」タブ**
本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、節電機能が働くまでの時間を設定します。「ポータブル／ラップトップの電源の設定」の「システムスタンバイ」でスタンバイするまでの時間を選択してください。
この場合は、スタンバイしたときのメモリ内のデータなどの保存先は、システム RAM になります。

■「アラーム」タブ

バッテリの残量が少なくなったときに Windows98 が出す警告についての設定をします。

「アラーム」タブの「バッテリ切れアラーム」の次の各項目のチェックを外さないでください。

- 「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」
- 「アラームの動作」をクリックして表示される「バッテリ切れのアラームの動作」ダイアログボックスの「電源レベル」の「アラーム後のコンピュータの動作」
- 「アラームの動作」をクリックして表示される「バッテリ切れのアラームの動作」ダイアログボックスの「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」

これらのチェックを外した状態で使用すると、バッテリが空になった時点で電源が切断されるため、作成中のデータが保存されないばかりか、パソコン本体が故障する原因となります。

■「詳細」タブ

SUS/RES スイッチを押したときや液晶ディスプレイを閉じたときに、パソコン本体の動作状態を設定します。ご購入時は、スタンバイするように設定されています。

重 要

- 〔MF〕〔MC〕で「ポータブルコンピュータを閉じたとき」の設定で移行したい状態に「なし」を選択した場合、本パソコンの動作中に液晶ディスプレイを閉じないでください。放熱が妨げられ、本パソコンが故障する原因となります。

POINT

- SUS/RES スイッチを押したときの状態は、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で設定できます。
- 液晶ディスプレイを閉じたときの状態は、「ポータブルコンピュータを閉じたとき」で設定できます。
- スタンバイモードから復帰するときにパスワードの入力を求めるメッセージを表示させることができます。
  1 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスの「詳細」タブをクリックします。
  2 「スタンバイ状態から回復したときにパスワードの入力を求める」をチェックします。

■「休止状態」タブ

本パソコンをスタンバイするときに、メモリ内のデータなどの保存先をハードディスクに変更するには、次の設定を行う必要があります。

- 「休止状態」タブの「休止状態をサポートする」をチェックする
- 「詳細」タブの「電源ボタン」の各項目を「休止状態」に設定する

POINT

- 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスに「休止状態」タブが表示されない場合は、Save To Disk 領域が削除されている可能性があります。Save To Disk 領域を作成し直してください。
  「Save To Disk 領域」（→ P.102）

■「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブ（FMV-6750NA7/B、FMV-6650NU7/L、FMV-6600NU7/L、FMV-6600MF7/X）

本パソコンをバッテリで使っているときに、CPU クロックの周波数を落とすとともに、CPU 動作電圧を落とすことで節電するかどうかを設定します。

本パソコンを AC アダプタで使っているときと、バッテリで使っているときで別々に設定できます。

「バッテリに合わせたパフォーマンス」に設定した場合、消費電力が低くなるので、バッテリ稼動時間が長くなります。

POINT

- タスクバーの をクリックしても設定画面が表示されます。
- 「Intel SpeedStep テクノロジ」ダイアログボックスと「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスは、同時に表示しないでください。
- Direct3D を使用するアプリケーションを起動中は以下の操作を行わないでください。
  - AC アダプタを抜き差しする
  - 「Intel SpeedStep テクノロジ」ダイアログボックスまたはタブの設定を変更する
- BIOS セットアップの「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」（→『ハードウェアガイド』参照）の項目でも設定を変更できます。Intel SpeedStep の設定を変更すると、BIOS セットアップの設定も変更されます。

■「BATTERYAID（2/2）」タブ（〔MF〕）

液晶ディスプレイの明るさを変更したり、CPU クロックを瞬間的に停止させることで節電するかどうかを設定します。

「画面の明るさ」は、本パソコンを AC アダプタで使っているときとバッテリで使っているときで、別々に設定できます。

POINT

- 液晶ディスプレイの明るさは、【Fn】キーを押しながら【F6】キーまたは【F7】キーを押しても変更できます（→『ハードウェアガイド』参照）。
- FMV-6600MF7/X では、「Intel SpeedStep テクノロジ」タブと「BATTERYAID(2/2)」タブは併用できます。どちらか一方のみで節電される場合は、「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブの設定を優先させてください。
- BATTERYAID がインストールされた状態（ご購入時はインストールされています）で Softex BayManager をインストールすると、BATTERYAID の CPU クロック調整機能、およびハードディスク回転開始時の電力抑制機能は動作しません。これらの機能をお使いの場合は、Softex BayManager をアンインストールしてください。変更のしかたや設定項目については、Windows98 のヘルプをご覧ください。
- ご購入時には AC アダプタ運用時に画面が明るく、バッテリ運用時は画面が暗くなるように設定されています。ご使用の環境に合わせて PMSet98 で明るさを変更してください。

PMSet98 での設定（〔MF〕以外）

PMSet98 には、現在の設定内容が表示される「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスと、バッテリ残量が表示される「インジケータ」機能があります。

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックス

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスは、タスクバーの または をダブルクリックして表示させます。

「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスでは、AC アダプタ接続時とバッテリ運用時のそれぞれについて省電力の設定を行うことができます。設定の詳細については、PMSet98 のヘルプをご覧ください。

POINT

- タスクバーに または が表示されていない場合は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「PMSet98」→「1. PMSet98」の順にクリックし、PMSet98 を起動してください。
- PMSet98 を終了するには、タスクバーの または を右クリックし、「終了」をクリックしてください。

インジケータ

インジケータは「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスの「インジケータ」タブで「インジケータを表示する」をチェックして表示させます。

インジケータの詳細については、PMSet98 のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスの「インジケータ」タブで表示位置を「自由位置」に設定すると、ドラッグして好きな位置に移動できます。

液晶ディスプレイの明るさを変更する

■ PMSet98 で設定する（〔NA〕以外）

PMSet98 の「電源依存」タブの「LCD バックライト」で液晶ディスプレイの明るさを設定できます。AC アダプタで使用しているときと、バッテリで使用しているときの明るさをそれぞれ設定できます。

■ 設定した明るさを変更する

本パソコンを使用中に【Fn】キーを押しながら【F6】または【F7】キーを押すと、上記の設定に関係なく、明るさを調節できます。

POINT

- ご購入時には AC アダプタ運用時に画面が明るく、バッテリ運用時は画面が暗くなるように設定されています。ご使用の環境に合わせて PMSet98 で明るさを変更してください。

第3章

リカバリとインストール

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」とソフトウェアの「インストール」について説明します。

1 リカバリ 58
2 ソフトウェアライブラリのアップデート 66
3 ソフトウェアのインストール 67

1　リカバリ

Windows98 が起動しないなどの問題が発生した場合、またはハードディスクの領域を変更したい場合は、リカバリを行います。

リカバリの概要

リカバリとは、「リカバリ CD-ROM」と「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合）を使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態（「プレインストール仕様」（→ P.19））に戻す操作です。

留意事項

- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップを行ってください。
- オプションを取り付けている場合は、それらをいったん取り外し、ご購入時の状態に戻してください。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合は「その他のポータブル CD-ROM ドライブを使用する場合」（→ P.18）を行ってください。
- カスタムメイドオプションのアプリケーションはリカバリされません。
- 本書では内蔵ポインティングデバイスでの操作を前提に記述してあります。

重 要

▶ FDD ユニット（USB）をお使いの場合には、以降の各操作を行う前に、BIOS の設定を変更してください（→『ハードウェアガイド』参照）。

- 「メイン」メニュー内
  フロッピーディスク A：使用しない
- 「詳細」メニュー内
  その他の内蔵デバイス設定
  ・フロッピーディスクコントローラ：使用しない
  USB 設定
  ・USB フロッピーディスク：使用する

なお、すべての作業を終えたら、必ず BIOS の設定を変更してください。

- 「メイン」メニュー内
  フロッピーディスク A：144/1.2 MB 3.5’
- 「詳細」メニュー内
  その他の内蔵デバイス設定
  ・フロッピーディスクコントローラ：使用する
  USB 設定
  ・USB フロッピーディスク：使用しない

リカバリの手順

リカバリは次の手順で行います。

1. 「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」のコピーと作成（→ P.15）
2. ハードディスクの圧縮解除（必要に応じて）（→ P.59）
3. ハードディスクの領域設定（必要に応じて）（→ P.60）
4. リカバリ方法（→ P.63）

リカバリ終了後

リカバリ後、必要に応じてソフトウェアをアンインストールしてください（→ P.25）。
また、必要に応じて添付アプリケーションやカスタムメイドのアプリケーションをインストールし、使用するソフトウェアをすべてインストールしたあと、ソフトウェアライブラリをアップデートしてください（→ P.66）。

ハードディスクの圧縮を解除する

ドライブスペースで圧縮されたドライブがハードディスクに存在する場合、リカバリできません。圧縮を解除してから、リカバリしてください。
Windows98 が起動できないなどの理由で圧縮を解除できない場合は、次の操作を行ってください。

1. 次の操作を行います。
   - 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
     「リカバリ CD-ROM」をセットします。
   - 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
     「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。
2. 本パソコンを再起動します。
3. 次の操作を行います。
   - 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
     「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キー（〔NA〕は【Esc】キー）を押し続けます。
     「起動メニュー」が表示されます。
   - 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
     手順 5 へ進みます。
4. 「3. ATAPI CD-ROM ドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 「Windows98 リカバリメニュー」が表示されたら、【3】キーを押します。
MS-DOS プロンプトが表示されます。

6 ハードディスク内に保存したいファイルがある場合は、保存用のフロッピーディスクをセットし、バックアップします。
手順 7 の操作を行うと、ハードディスクの内容を保存できなくなります。必要なファイルは必ずバックアップしてください。

7 次のように入力し、【Enter】キーを押します。
```
deldbspc ［ホストドライブ］:
```
ファイルが削除されます。

8 本パソコンの電源を切ります。

ハードディスクの領域を設定する

次のいずれかに該当する場合、ハードディスクの領域を設定する必要があります。
- 現在のハードディスク領域を変更したいとき
- ハードディスクを増設したとき

ハードディスク領域の概要

まず、ハードディスク領域の概要を説明します。

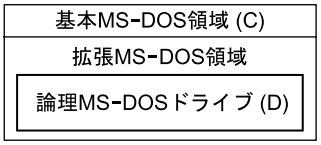
■ 基本 MS-DOS 領域と拡張 MS-DOS 領域

ハードディスク領域には、次の 2 種類があります。

- **基本 MS-DOS 領域**
  OS をインストールするために必要な領域です。プライマリマスターに接続されたハードディスク（1 台目のハードディスク）の基本 MS-DOS 領域は、起動ドライブ（C ドライブ）になります。プライマリマスター以外に接続されたハードディスク（増設したハードディスク）の場合は、基本 MS-DOS 領域の作成は必須ではありません。
- **拡張 MS-DOS 領域**
  アプリケーションやデータを格納するための領域です。基本 MS-DOS 領域を設定している場合は、残りの領域すべてが拡張 MS-DOS 領域になります。増設したハードディスクの場合は、ハードディスク全体を拡張 MS-DOS 領域にできます。
  拡張 MS-DOS 領域内には、論理 MS-DOS ドライブを作成する必要があります。論理 MS-DOS ドライブを作成することで、拡張 MS-DOS 領域にドライブ名（D、E、F …）が割りふられます。論理 MS-DOS ドライブは複数（最高 23 個）作成できます。

POINT

- 本パソコンご購入時にはプライマリマスターのハードディスクに、基本 MS-DOS 領域と拡張 MS-DOS 領域が設定され、拡張 MS-DOS 領域全体が 1 つの論理 MS-DOS ドライブに設定されています。



■ FAT16 と FAT32

ハードディスクの領域を設定する場合に、ファイルの管理形式として FAT16 または FAT32 のどちらかを選択できます。

FAT16 は最大 2GB までしかドライブを管理できません。そのため、2GB を超える領域を作成したい場合は FAT32 を使用します。しかし、FAT32 をサポートしていない OS（MS-DOS や WindowsNT 4.0 など）から FAT32 でフォーマットしたハードディスクを認識できません。このため、MS-DOS で作成された起動フロッピーからインストールを行うアプリケーションの場合、インストールに失敗するなどの問題が発生することがあります。

POINT

- リカバリは、FAT16、FAT32 のいずれのファイルシステムに対しても実行できます。

ハードディスクの領域を設定するうえでの留意事項

ハードディスクの領域を設定する前にお読みください。

- 領域を削除したり容量を変更したりすると、領域内のファイルはすべて削除されます。必要に応じて事前にバックアップをとってください。
- 基本 MS-DOS 領域は、リカバリに必要な領域（最低 2GB）に設定してください。
- ご購入時の設定では Save To Disk が作成されています。Save To Disk 領域は「領域 1（種類 : Non-DOS）」と表示されます。特に設定し直す必要はありませんが、設定する場合は MS-DOS 領域を作成する前に作成してください（→ P.102）。その場合、Save To Disk 領域の容量はご購入時から変更され、現在のメモリ容量に最適な Save To Disk 領域が作成されます。

ハードディスクの領域を設定する

領域の設定には、FDISK コマンドを使用します。

手順の流れを確認後、FDISK を起動してください。

■ 手順の流れ

1 FDISK で必要に応じて領域を削除する

削除は次の順番で行います。

1 拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブの削除
2 拡張 MS-DOS 領域の削除
3 基本 MS-DOS 領域の削除
4 Save To Disk 領域の削除

2 FDISK で領域を作成する

削除と逆の順番で行います。

POINT

- Save To Disk 領域を作成するときは、PHDISK ユーティリティで作成してください（→ P.102）。なお、区画形式の Save To Disk 領域を作成する場合は、MS-DOS 領域作成前に Save To Disk 領域を作成してください。

3 ドライブをフォーマットする

リカバリを行うドライブは、リカバリ中にフォーマットされますので、フォーマットの必要はありません。

■ FDISK の起動方法と概要

FDISK は、次の手順で起動してください。なお、Windows98 がインストールされている環境で増設ハードディスクの領域を設定する場合は、Windows98 の MS-DOS プロンプトで「fdisk」と入力し、【Enter】キーを押してください。

1 次の操作を行います。

- 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
  「リカバリ CD-ROM」をセットします。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
  「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

2 本パソコンを再起動します。

3 次の操作を行います。

- 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
  「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キー（〔NA〕は【Esc】キー）を押し続けます。
  「起動メニュー」が表示されます。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
  手順 5 へ進みます。

4 「3. ATAPI CD-ROM ドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 「Windows98 リカバリメニュー」が表示されたら、【2】キーを押します。

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか ...？」と表示されます。

6 FAT16 を使用するときは【N】キーを、FAT32 を使用するときは【Y】キーを押して、【Enter】キーを押します。

「FDISK オプション」が表示されます。

7 次の説明と画面のメッセージを参照し、領域を設定します。

- MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
  基本 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成する場合に選択します。
- アクティブな領域を設定
  基本 MS-DOS 領域をアクティブ（領域に OS をインストールしたら起動できる状態）にする場合に選択します。なお、基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを割り当てた場合は、自動的にアクティブに設定されます。アクティブな領域は、「状態」に「A」と表示されます。

重 要

- 基本 MS-DOS 領域（領域 C）をアクティブに設定しないと、ハードディスクから起動できません。基本 MS-DOS 領域は、必ずアクティブに設定してください。

- 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
  すでに設定されている基本 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域、拡張 MS-DOS 領域内の論理 MS-DOS ドライブを削除する場合に選択します。
- 領域情報を表示
  現在の設定を確認する場合に選択します。
- 現在のハードディスクドライブを変更（ハードディスクを増設している場合に表示されます）
  FDISK を起動すると、プライマリマスターのハードディスクを設定できる状態になります。これを増設したハードディスクに切り換える場合に選択します。

リカバリ方法

本パソコンをご購入時の状態に戻す「リカバリ」の手順を説明します。
次のものを用意してください。

- コピーした「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（〔MC〕）（→ P.15）
- 作成した「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」（内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合）（→ P.17）
- 「リカバリ CD-ROM」

POINT

- リカバリを行うと、C ドライブのファイルはすべて削除されます。ご注意ください。
- リカバリの所要時間は、最大約 30 分です。

1 BIOS の設定をご購入時の設定に戻します。

ご購入時の設定に戻すには、BIOS セットアップ（→『ハードウェアガイド』参照）の設定を初期値に戻し、次の設定を行ってください。

- 「メイン」メニュー内（〔NA〕以外）
  フロッピーディスク A
  （フロッピーディスクを使用する場合）：1.44/1.2MB 3.5
  （〔MF〕〔MC〕で FDD ユニット（USB）を使用する場合）：使用しない
  （スーパーディスクドライブを使用する場合）：使用しない
- 「詳細」メニュー内（〔NA〕の場合）
  周辺機器設定
  ・ フロッピーコントローラ
  （フロッピーディスクを使用する場合）：使用する
  （スーパーディスクドライブを使用する場合）：使用しない
- 「詳細」メニュー内（〔NU〕〔MF〕〔MC〕の場合）
  キーボード／マウス設定
  ・ ホットプラグ：使用しない
  （〔NU〕の内蔵ポインティングデバイス非搭載モデル）
  ・ 内蔵ポインティングデバイス：常に使用する
  （〔NU〕のワイヤレスマウス添付モデル）
  ・ ワイヤレスマウス：使用する
  （〔NU〕のワイヤレスマウス添付モデル）
  その他の内蔵デバイス設定
  ・ フロッピーディスクコントローラ
  （フロッピーディスクを使用する場合）：使用する
  （〔MF〕〔MC〕で FDD ユニット（USB）を使用する場合）：使用しない
  （スーパーディスクドライブを使用する場合）：使用しない
  USB 設定
  ・ USB フロッピーディスク：使用する
  （〔MF〕〔MC〕で FDD ユニット（USB）を使用する場合）

BIOS セットアップの設定をご購入時と異なる設定に変更していると、インストール時にエラーメッセージが表示されることがあります。

2 次の操作を行います。

- 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
  「リカバリ CD-ROM」をセットします。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
  「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」をセットします。

3 本パソコンを再起動します。

4 次の操作を行います。

- 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
  「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F12】キー（〔NA〕は【Esc】キー）を押し続けます。
  「起動メニュー」が表示されます。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
  手順 6 へ進みます。

5 「3. ATAPI CD-ROM ドライブ」を選択し、【Enter】キーを押します。

6 「Windows98 リカバリメニュー」が表示されたら、【1】キーを押します。
「処理を続行される前に、必ず以下をよくお読みください。」と表示されます。

7 【↑】【↓】キーまたは【Page Up】【Page Down】キーで説明をスクロールし内容を確認して、【Y】キーを押します。

8 次の操作を行います。

- 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
  【Y】キーを押します。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
  「リカバリ CD-ROM」をセットし、しばらくしたら【Y】キーを押します。

あとは、メッセージに従って操作します。
リカバリが終了すると「正常にソフトウェアの復元作業が行われました。」と表示されます。

重 要

▶ 〔MF〕〔MC〕で FDD ユニット（USB）をお使いの場合

1 【Ctrl】+【Alt】+【Dlete】キーを押して本パソコンを再起動します。
2 「FUJITSU」ロゴの下に文字が表示されたら、すぐに【F2】キーを押し続けます。
BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップメニューに入れなかった場合は、再度【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動し、「FUJITSU」ロゴが表示されたら、【F2】キーを押し続けます。

3 BIOS セットアップ画面に入ったら、次のように設定します（→『ハードウェアガイド』参照）。
- 「メイン」メニュー内
  フロッピーディスク A：1.44/1.2MB 3.5
- 「詳細」メニュー内
  その他の内蔵デバイス設定
  フロッピーディスクコントローラ：使用する
  USB 設定
  USB フロッピーディスク：使用しない

4 PC カードと USB フロッピーを取り外します。
5 【F10】キーを押します。
本パソコンが再起動します。
6 手順 10 に進みます。

9 次の操作を行います。

- 内蔵 CD-ROM ドライブをお使いの場合
  CD-ROM を取り出してから、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動します。
- 内蔵 CD-ROM ドライブ以外をお使いの場合
  PC カードとフロッピーディスクを取り出してから、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して本パソコンを再起動します。

10 以降、第 1 章を参照して操作してください（→ P.10）。

2 ソフトウェアライブラリのアップデート

添付ソフトなど新たにソフトウェアをインストールした場合、アプリケーションによっては追加された MFC ライブラリをアップデートする必要があります。

アップデート方法

使用するソフトウェアすべてをインストール後にアップデートしてください（1 つのソフトウェアをインストールするごとにアップデートする必要はありません）。該当する MFC ライブラリが検出・アップデートされます。

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥libupd¥speu.exe

4 本パソコンを再起動します。

3 ソフトウェアのインストール

一部のドライバおよびアプリケーションのインストール方法を説明します。

重 要

- 添付の「ドライバーズ CD」には、機種によっては使用できないソフトウェアも含まれています。本書を参照し、正しいソフトウェアを使用してください。誤ったソフトウェアをインストールした場合、本パソコンが正しく動作しなくなり、リカバリが必要となることがあります。
  なお、「ドライバーズ CD」の Indexcd.htm もご覧ください。

ドライバのインストール

リカバリ後、ドライバを再インストールする必要はありません。何らかの理由でドライバの再インストールが必要な場合のみ、必要なドライバを再インストールしてください。
ドライバのインストールは、それぞれのドライバのインストール手順をご覧ください。
インストール手順は「ドライバーズ CD」内の次の表の場所にあります。

ドライバ	機種	Readme.txt の保存場所
ディスプレイドライバ	〔NA〕〔NU〕	¥Ati¥Readme.txt
	〔MF〕〔MC〕ベースモデル	¥Trident¥Readme.txt
	〔MC〕タッチパネルモデル	¥TridentR¥Readme.txt
サウンドドライバ	〔NA〕	¥Es1978s¥Readme.txt
	〔NU〕	¥Yamaha¥Readme.txt
	〔MF〕〔MC〕	¥Sigma¥Readme.txt
LAN ドライバ		¥Landrv¥Readme.txt
タッチパネルドライバ（〔MC〕タッチパネルモデル）		¥Tpanel¥Readme.txt

この表以外のドライバについては、「ドライバーズ CD」内の「Indexcd.htm」で該当するドライバのフォルダ名称を確認し、フォルダ内の Readme.txt をご覧ください。

プレインストールソフトのインストール

ここでは、ご購入時にインストールされているソフトウェアのインストール方法について記述しています。アンインストールしたソフトウェアを再度インストールする場合のみ、次の方法でインストールしてください。

POINT

- カスタムメイドオプションのアプリケーションをインストールする方法は、各アプリケーションのマニュアルをご覧ください。

DirectX7.0a のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥dx70a¥dx7ajpn.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

PMSet98 のインストール（〔MF〕以外）

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥pmset¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

POINT

- PMSet98 をインストール後は、各機種で次の設定を行ってください。
  - 〔MC〕以外の設定変更箇所
    - 「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスの「インジケータ」タブで、「インジケータを表示する」のチェックを外します。
  - 〔MC〕の設定変更箇所
    - 「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスの「インジケータ」タブで、「表示位置」を「自由位置［ドラッグして位置決め］」に設定し、表示されたインジケータを１センチ程度左の位置に設定します。
    - 「PMSet98 のプロパティ」ダイアログボックスの「電源依存」タブで、「LCD バックライト」のバッテリ運用時の設定を右（明側）に２つ移動させます。

BATTERYAID のインストール（〔MF〕）

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥battery¥setup.exe

4 「次へ」をクリックします。

このあとは、メッセージに従って操作します。

Intel SpeedStep のインストール（FMV-6750NA7/B、FMV-6650NU7/L、FMV-6600NU7/L、FMV-6600MF7/X）

1 「リカバリ CD-ROM」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥spdstep¥setup.exe

「ようこそ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「次へ」をクリックします。

「製品ライセンス契約」ダイアログボックスが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

「セットアップの完了」ダイアログボックスが表示されます。

6 「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」をクリックし、「完了」をクリックします。

Windows 環境調査ツール（FM Advisor）のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥advisor¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

Acrobat Reader のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥acrobat¥acrd4jpn.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

4 本パソコンを再起動します。

Intellisync のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥intsync¥disk1¥setup.exe

インストールが始まります。次のポイントをご覧になり、メッセージに従って操作します。

POINT

- 「ユーザの情報」ダイアログボックスでは次のように入力してください。
  名前：FMV-USER
  会社名：FM-USER
  シリアル番号：FUJ014
- 「セットアップの完了」ダイアログボックスでは「「Readme」ファイルの起動」のチェックを外し、「IrWizard を起動して赤外線接続を設定します」をチェックしてください。
- 「赤外線の設定－現在のデバイス」ダイアログボックスでは「Fujitsu FMV BIBLO FastIR1」が選択されていることを確認し、「完了」をクリックしてください。「Fujitsu FMV BIBLO FastIR1」が選択されていない場合は、「次へ」をクリックしてメッセージに従って「Fujitsu FMV BIBLO FastIR1」を選択してください。
- 「赤外線の設定 － IrComm ポートの選択」ダイアログボックスでは、「None」を選択してください。
- 「赤外線の設定 － IrLPT ポートの選択」ダイアログボックスでは、「None」を選択してください。

FMV 診断のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥shindan¥enterprise¥disk1¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

FM 一発修正のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「C:¥Fjuty」フォルダの下に「Fmcure」フォルダを作成します。

3 「ドライバーズ CD」の「Fmcure」フォルダ内のすべてのファイルを、作成した「Fmcure」フォルダにコピーします。

添付ソフトのインストール

TouchPad（〔NA〕）のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥tpad¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

GlidePoint（〔NU〕〔MF〕）とクイックポイント IV ドライバ（〔MC〕ベースモデル）のインストール

重 要

- 他のマウスドライバをインストールしている場合、GlidePointのドライバはインストールしないでください。
- クイックポイント IV ドライバのインストールおよび使用に際しては、留意事項（→ P.94）を確認してください。

POINT

- 出荷時の設定では、クイックポイント IV ドライバをハードディスクからインストールできます。この場合、CD-ROM ドライブの接続や「ドライバーズ CD」のセットは必要ありません。

1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

3 「マウス」の「PS/2 互換マウスポート」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。

4 「ドライバ」タブの「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。

5 「次へ」をクリックします。

6 「特定の場所にある ...」をチェックし、「次へ」をクリックします。

7 「ディスク使用」をクリックし、「配布ファイルのコピー元」に次のように入力して「OK」をクリックします。

〔NU〕〔MF〕　[CD-ROM ドライブ]:¥alps
〔MC〕　[CD-ROM ドライブ]:¥qpoint または C:¥fjuty¥drivers¥qpoint

8 次の項目をクリックし、「次へ」をクリックします。

〔NU〕〔MF〕　「Alps GlidePoint」
〔MC〕　「Fujitsu PS/2 QuickPoint4」

POINT

- 「ドライバ更新の警告」ダイアログボックスが表示された場合は、「はい」をクリックします。

9 「次へ」をクリックします。
ファイルがコピーされます。

10 「完了」をクリックします。

重 要

- ACPI モードのときは、手順 10 ではポインティングデバイスを使用できません。キーボードで操作してください。

11 再起動メッセージが表示されたら、「はい」をクリックしてください。

POINT

- GlidePoint（〔NU〕〔MF〕）では、「コントロールパネル」ウィンドウの「マウス」アイコンをダブルクリックすると、ポインティングデバイスの機能を設定できます。
- クイックポイント IV ドライバ（〔MC〕）では、「コントロールパネル」ウィンドウの「クイックポイント」アイコンをダブルクリックすると、ポインティングデバイスの機能を設定できます。

ワンタッチボタン設定のインストール（〔MF〕〔MC〕）

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

〔MF〕　[CD-ROM ドライブ]:¥onetouch.mf¥setup.exe

〔MC〕　[CD-ROM ドライブ]:¥onetouch.mc¥setup.exe

メッセージに従ってインストールを続けます。

POINT

- Windows98 を終了後、またはスタンバイ時にボタンを使うためには、各タブで以下の項目をチェックする必要があります。なお、MAIN スイッチを切っている状態では、ワンタッチボタンを使用できません。
  - スタンバイ時 :「スタンバイ状態のときでも、このボタンを有効にする」
  - Windows98 終了後 :「電源が切れているときでも、このボタンを有効にする」
- Windows98終了後またはスタンバイ時にE-mailボタンを押すと、新着Eメールがあるときはメールソフトが起動し、新着 E メールを受信します。新着 E メールがないときは、自動的に Windows98 を終了または本パソコンがスタンバイ状態になり、元の状態に戻ります。

VirusScan のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥vscan¥win95_98¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

モバイルスイッチャーのインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥fmmc¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

FMKEEPER のインストール

インストール手順につきましては、「ドライバーズ CD」の「Update」フォルダ内にある「Etc」フォルダの「Fmkeeper」フォルダ内にある Readme.txt をご覧ください。

10 円メールマスターのインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥10mail¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

FM-Menu のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥fmmenu¥setupfm-menu.exe

「FM-Menu インストール」が表示されます。

4 「次へ」をクリックします。

このあとは、メッセージに従って操作します。

はじめよう！インターネット（@nifty) のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥nifty¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

NIFTY MANAGER のインストール

1 「ドライバーズ CD」をセットします。

2 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3 「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

[CD-ROMドライブ]:¥niftynim¥setup.exe

このあとは、メッセージに従って操作します。

Softex BayManager（〔MF〕）のインストール

インストール手順につきましては、「ドライバーズ CD」内にある「Softex」フォルダにある Readme.txt をご覧ください。

POINT

- BATTERYAID がインストールされた状態で Softex BayManager をインストールすると、BATTERYAID の CPU クロック調整機能、およびハードディスク回転開始時の電力抑制機能は動作しません。

第4章
困ったときに

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

1　こんなときには 78
2　それでも解決できないときは 84

1　こんなときには

ここでは、Windows98 の使用時に直面する問題について、Q&A 形式でまとめています。また、トラブルが発生したときや困ったときの参照先を説明しています。

トラブル発生時の参照先

Windows98 に関して

添付の Windows98 のマニュアルか、「スタート」メニューに登録されているオンラインヘルプをご覧ください。

ハードウェアに関して

『ハードウェアガイド』をご覧ください。

トラブルシューティング

Q　プログラム実行中に Windows98 上のすべてのものが動かなくなってしまった

A　1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「プログラムの強制終了」ウィンドウが表示されます。
2 動かなくなったプログラムを選択し、「終了」をクリックします。
プログラムが強制終了します。
もし上記の操作で強制終了できないときは、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押す操作を 2 回繰り返して、Windows98 を強制的に再起動してください。
この方法で再起動できないときは、次のように操作してください。

- 〔NA〕SUS/RES スイッチを 4 秒以上押し続けます。10 秒以上待ってから本パソコンの電源を入れます。
- 〔NU〕〔MF〕〔MC〕MAIN スイッチを OFF にし、10 秒以上待ってから本パソコンの電源を入れます。

POINT

- プログラムを強制終了したり、本パソコンを強制的に再起動したり、強制的に電源を切った場合には、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- プログラムを強制終了したり、本パソコンを強制的に再起動したり、強制的に電源を切った場合は、「スキャンディスク」を実行することをお勧めします。
「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「スキャンディスク」の順にクリックしてください。
スキャンディスクを実行した結果、エラーがない場合はそのままお使いください。エラーが表示されたときは、メッセージに従って修復してください。ただし、修復してもトラブルが発生する可能性があります。トラブルが頻繁に発生する場合は、リカバリしてください（→ P.58）。

Q　ポインティングデバイスが使えないため、Windows98 を終了できない

A　キーボードを使って Windows98 を終了させることができます。

1【Windows】キーまたは【Ctrl】+【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
2「Windows の終了」を選択し【Enter】キーを押します。
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。
3「電源を切れる状態にする」を選択し、【Enter】キーを押します。
Windows98 が終了します。

ポインティングデバイスが故障している場合は、弊社パーソナルエコーセンターまたはご購入元に連絡してください。

Q　PC カードが使えない

A1　PC カードのドライバはインストールされていますか？

PC カードに Windows98 対応のドライバが添付されている場合、ドライバをインストールする必要があります。PC カードに添付のマニュアルをご覧ください。

A2　IRQ リソースは足りていますか？

IRQ リソースが不足する場合があります。次の操作を行ってください。

1 お使いにならないデバイス（プリンタなら「パラレルポート」など）を BIOS セットアップで「使用しない」にします（→『ハードウェアガイド』参照）。
2「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
3「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
4 お使いにならないデバイス（プリンタなど）をダブルクリックします。
5「全般」タブの「このハードウェアプロファイルで使用不可にする」をチェックします。
6 ダイアログボックスを閉じます。

Q　パソコン本体に通信系の PC カードをセットしたが正しく動作しない（モデムモデル（PDC コネクタ付き））

A　PC カードをセットする前に、次の手順で設定を行ってください。

1「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
2「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
3「モデム」の「Fujitsu SOFT PDC」をダブルクリックします。
4「リソース」タブをクリックします。
5「自動設定を使う」のチェックを外し、「基本設定 0004」を選択します。
6「設定の変更」をクリックします。
7「I/O 範囲の変更」ダイアログボックスで、値ボックスの数値を「0100-0107」に設定し、「OK」をクリックします。
8「OK」をクリックします。
9「変更不可の環境設定の作成」ダイアログボックスで「はい」をクリックします。
10「閉じる」をクリックし、「システムのプロパティ」ダイアログボックスを閉じます。

Q　**「モデム着信によるレジューム」を設定したがレジューム時にモデムが使用できない（モデムモデルとコンボモデル）。**

A　**「マイクロソフト 仮想プライベートネットワーク アダプタ」がインストールされていませんか？**

「マイクロソフト 仮想プライベートネットワーク アダプタ」がインストールされている場合、「モデム着信によるレジューム」を設定したとき、レジューム時にモデムが使用できません。「モデム着信によるレジューム」を設定する場合は、「マイクロソフト 仮想プライベートネットワーク アダプタ」を削除してください。

Q　ATA FLASH カードが 2 枚使えない（〔MF〕）

A1　**内蔵 PC カードユニットは取り付けられていますか？**

モバイルマルチベイに内蔵 PC カードユニットを取り付けてください（→『ハードウェアガイド』参照）。

A2　**次の手順に従って設定を行ってください。**

1 PC カードを取り出します（→『ハードウェアガイド』参照）。
2「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
3「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
4「コンピュータ」をダブルクリックします。
「コンピュータのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
5「リソースの予約」タブをクリックし、「I/O ポートアドレス」をチェックします。
6「追加」をクリックします。
「リソース設定の編集」ダイアログボックスが表示されます。
7「開始の値」に 170、「終了の値」に 177 を入力し、「OK」をクリックします。
8「OK」をクリックします。
9 すべてのダイアログボックスを閉じます。

Q　**アプリケーションのインストールが正常に行われない**

A　**ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。**

ウイルス検索ソフトを終了させ、アプリケーションのインストールができるか試してください。
ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

Q　**新しくアプリケーションをインストールしたあと、他のアプリケーションを実行中にアプリケーションエラーが発生するようになった**

A　**アプリケーションのインストール時に追加された MFC ライブラリに問題がある場合があります。ソフトウェアライブラリをアップデートしてください**（→ P.66）。

Q　ディスプレイドライバ、サウンドドライバ、LAN ドライバおよびタッチパネルドライバ（〔MC〕タッチパネルモデル）が正しく動作しない

A1　Windows98 が起動されないときは、Safe モードで起動してから、ドライバをインストールしてください。

手順は次のとおりです。

1 本パソコンの電源を入れます。
2 「FUJITSU」ロゴが表示されたら、【Ctrl】キーを押し続けます。
「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。
3 「3. Safe mode」を選択し【Enter】キーを押します。

POINT

- **「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、【半角／全角】キーを押します。**

しばらくすると、「デスクトップ」ダイアログボックスが表示されます。
4 「OK」をクリックします。
5 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
6 「設定」タブの「詳細」をクリックします。
「（不明なデバイス）のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
7 「アダプタ」タブの「変更」をクリックします。
「デバイスドライバの更新ウィザード」ダイアログボックスが表示されます。
8 「次へ」をクリックします。
9 「特定の場所にある ...」をチェックし、「次へ」をクリックします。
10 一覧から「ディスプレイアダプタ」を選択し、「次へ」をクリックします。
11 「製造元」を「（標準ディスプレイ）」に、「モデル」を「標準ディスプレイアダプタ（VGA）」に設定し、「次へ」をクリックします。
「ドライバ更新の警告」ダイアログボックスが表示されます。
12 「はい」をクリックします。
「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」と表示されます。
13 「次へ」をクリックします。
14 「完了」をクリックします。
15 「閉じる」を 2 回クリックします。
「続行しますか？」と表示されます。
16 「はい」をクリックします。
再起動メッセージが表示されたら、本パソコンを再起動します。

POINT

- **再起動後に、「ディスプレイに問題があります。」と表示されたときは、「画面のプロパティ」ダイアログボックスで色数を 16 色に設定し、本パソコンを再起動してください。**
- **「OK をクリックするとハードウェアウィザードが始まります。」と表示されたときは、必ず「キャンセル」をクリックしてください。**

A2　各ドライバをインストールし直す必要があります。

お使いの機種に対応する各ドライバは、「デバイス一覧」（→ P.22）でご確認ください。
インストール方法については、「ドライバのインストール」（→ P.67）をご覧ください。

Q　**オンラインヘルプやエラーメッセージの対処方法を参照しても原因がわからない**

A　**本パソコンでは、次のパソコン診断アプリケーションを用意しています。**

FM Advisor

FM Advisor の使用方法は、次のとおりです。

1「スタート」ボタン→「プログラム」→「FM Advisor」→「FM Advisor」の順にクリックします。

調査結果が表示されます。

FMV 診断

FMV 診断の使用方法は次のとおりです。

1「スタート」ボタン→「FMV 診断」の順にクリックします。

このあとはメッセージに従って操作してください。

POINT

- **起動中のアプリケーションや常駐プログラムはすべて終了してください。**
- **スクリーンセーバーは「なし」に設定してください。**
- **フロッピーディスクドライブを診断する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをセットしてください。**
- **CD-ROM ドライブを診断する場合は、お手持ちの CD-ROM をセットしてください。**

Q　**画面の文字やウィンドウのボタンが正しく表示されない、フォントがインストールできない、ネットワークプロトコルが追加できない**

A　**「FM 一発修正」を使用してください。**

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。

3「名前」に次のように入力し、「OK」をクリックします。

```
c:¥fjuty¥fmcure¥fmcure.exe
```

Q　**ハイパーターミナルでの通信がうまくいかない**

A1　**データ送受信中に通信に失敗する場合があります。この場合は、次のいずれかの方法でお使いください。**

・ 他の通信ソフトウェアを使用する（「NIFTY MANAGER」など）

・ 他の通信速度のアクセスポイントに変更する

・ 他の通信プロトコルを使用する（「ZMODEM」など）

A2　**次の状況では、ハイパーターミナルが誤動作する場合があります。この場合は、モジュラーケーブルが正しく接続されているか、設定内容が正しいかを確認し、本パソコンを再起動してください。**

・ モジュラーケーブルを接続しないで電話をかける

・ PBX 回線で、「トーンを待ってからダイヤルする」に設定し、電話をかける

Q　スタンバイに移行できない

A1　**「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスでの設定は、次の設定が選択されていますか？（→ P.54）**

「詳細」タブー「ポータブルコンピュータを閉じたとき」：使用する
「詳細」タブー「コンピュータの電源ボタンを押したとき」：使用する

A2　**それでも解決できないときは次の手順に従って、設定を行ってください。**

1「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
2「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「接続別に表示」をクリックします。
3「Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) BIOS」をクリックし、「削除」をクリックします。
4「デバイス削除の確認」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックします。
5「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、「いいえ」をクリックします。
6「システムのプロパティ」ダイアログボックスの「閉じる」をクリックします。
7「コントロールパネル」ウィンドウの「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックします。
8「新しいハードウェアの追加ウィザード」ダイアログボックスで、「次へ」をクリックします。
9「[次へ]をクリックすると、続行します。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。

POINT

- **「インストールするデバイスは一覧にありますか？」と表示された場合は、「デバイスは一覧にない」をクリックし、「次へ」をクリックします。**

10「新しいハードウェアを自動的に検出しますか？」と表示されたら、「はい」をクリックし、「次へ」をクリックします。
11「検索を始めるには、「次へ」をクリックしてください。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
12「完了」をクリックします。
13「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、「はい」をクリックします。
本パソコンが再起動します。これで操作は終了です。

Q　表示画面が乱れる

A　**アプリケーションを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、以下の手順でウィンドウの再表示を行ってください。**

1　ウィンドウの右上にある最小化ボタンをクリックし、アプリケーションを最小化する。
2　タスクバーに最小化されたアプリケーションのボタンをクリックすると、ウィンドウが再表示されます。

POINT

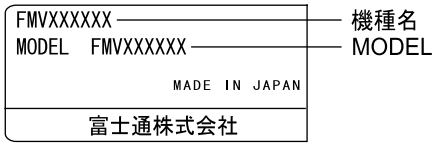
- **次のような場合に表示画面が乱れることがありますが、動作上は問題ありません。**
  - **Windows 起動時および画面の切り替え時**
  - **DirectX を使用した一部のアプリケーション使用時**

2 それでも解決できないときは

下記の連絡先へお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名と MODEL を確認し、次のページのシートに環境とトラブル状況などを記入してください。

機種名と MODEL の表記場所

パソコン本体下面のラベルに記載されています。



連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
故障かなと思われたとき	弊社パーソナルエコーセンター※またはご購入元
FM シリーズの技術的なご質問・ご相談	FM インフォメーションサービス※
本パソコンにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	本書の冒頭に記載されている「お問い合わせ一覧」（→ P.5）

※：パーソナルエコーセンターと FM インフォメーションサービスの連絡先は、添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください。

情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通パソコン FAX サービス （カタログ、Q&A 情報）	043-299-3642（千葉） 06-6949-3270（大阪）
インターネット （製品の技術情報、Q&A 情報）	富士通パソコンホームページ FM WORLD http://www.fmworld.net/
FM シリーズの音声による Q&A 情報	FM インフォメーションテレホンガイド 0120-89-2235

お問い合わせ前の確認シート

お使いのパソコンの機種は？	機種名：FMV	
	MODEL：FMV	
	購入日：	購入店：

メモリの容量は？	本体標準：　　MB	
	増設：　　MB	［メーカー：　　］ ［型番：　　］

	種類	型番号	メーカー
増設した周辺機器は？			

	ソフトウェア名	バージョン／レベル	メーカー
お使いのソフトウェアは？	Windows 98 operating system SECOND EDITION	4.10.2222A	—

トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに起こりましたか？	
エラーメッセージは表示されましたか？その内容は何ですか？	
以前は問題なく動作していましたか？	・ 以前は動作した ・ 今回初めて試した ・ 以前から動作しない

第 5 章
技術情報

留意事項および Save To Disk 領域について説明しています。

1　その他の留意事項 88
2　Save To Disk 領域 102

1　その他の留意事項

本パソコンをお使いになるうえでの留意事項を記載しています。

Windows98 の CD-ROM を要求された場合

ドライバのインストール時などに、「'Windows 98 Second Edition CD-ROM' ラベルの付いたディスクを挿入して「OK」をクリックしてください。」と表示される場合があります。このときは「c:¥windows¥options¥cabs」を指定してください。

本パソコンで使用するソフトウェア

古いバージョン／レベルのソフトウェア（アプリケーション、ドライバ）を使用すると、本パソコンおよびソフトウェアが正常に動作しない場合があります。本パソコンに添付されているソフトウェアは、添付されているバージョンを使用するか、その最新版を入手して使用してください。
また、本パソコンに添付されていないソフトウェアの場合も、最新版を使用してください。

FrontPage Express のインストール

FrontPage Express は「スタート」メニューに登録されていません。また、「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」アイコンからインストールすることもできません。
インストールは、次の URL よりダウンロードしてください。
http://windowsupdate.microsoft.com/

【Windows】キーを押したときの動作

アプリケーションを終了した直後やメッセージなどが表示されたウィンドウを閉じた直後に【Windows】キーを押すと、エラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、「閉じる」をクリックしてエラーメッセージを閉じ、Windows98 を再起動してください。

他の OS を使うには

WindowsNT 4.0 など、他の OS を使うには、いくつかの設定を行う必要があります。ただし、機種により使用できない OS もあります。
詳しくは、富士通パソコンホームページ FM WORLD（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。
なお、インターネットをご利用になれない場合は、ご購入元にご確認ください。

Acrobat Reader について

市販のアプリケーションによっては、インストールの際に、Acrobat Reader を一緒にインストールするものがあります。このとき、本パソコンにプレインストールされている Acrobat Reader 4.05 よりも低いバージョンのものがインストールされてしまうことがあります。
バージョンをご確認のうえ、Acrobat Reader 4.05 をインストールし直してください（→ P.70）。

FM Advisor の CPU 情報表示

FM Advisor の「CPU 情報」の表示において、CPU 名・CPU クロックが正しく表示されない場合があります。あらかじめご了承ください。

ネットワーク運用時の省電力機能

ネットワーク環境下で省電力機能を使用する場合、次の点にご注意ください。
次の条件下では、使用するプロトコルやアプリケーションによっては、不具合（省電力モードからの復帰時に正常に通信できないなど）が発生することがあります。

- TCP/IP、IPX/SPX プロトコル以外のプロトコルを使用している場合
- ネットワーク環境で通信中に、手動（SUS/RES スイッチを押す、「スタート」ボタン→「スタンバイ」の順にクリックする、などの操作）により省電力モードに移行した場合
- ネットワーク上でファイルの共有を設定し、手動（SUS/RES スイッチを押す、「スタート」ボタン→「スタンバイ」の順にクリックするなどの操作）により省電力モードへ移行したときに、次のダイアログボックスで「はい」を選択した場合

  「××個のファイルが、このコンピュータに接続しているユーザによって開かれています。コンピュータを停止するとファイルは強制的に閉じられ、ファイルを使っていたユーザはデータを失う可能性があります。続けますか？」

POINT

- 「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスにある「モニタの電源を切る」、「ハードディスクの電源を切る」の設定はネットワークに影響しません。

Wakeup On LAN 機能

■ 設定方法

ネットワーク環境下で Wakeup On LAN 機能を使用する場合は、次の設定を行ってください。

1 「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「システムのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3 「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100) のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

4 「電源の管理」タブをクリックします。

5 次の 2 つの項目をチェックし、「OK」をクリックします。

- 節電のためにコンピュータの電源を自動的に切る
- コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う

■ **留意事項**

- Wakeup on LAN 機能を使用すると、ネットワーク状態を最新の情報に更新するためにコンピュータが定期的にアクティブになることがあります。そのため、不適切なときにコンピュータがアクティブになったり、バッテリを消耗する原因となったりする可能性があります。そこで、省電力モードへの移行については、次の手順でタイマ値の設定をお勧めします。

  1 「コントロールパネル」ウィンドウの「電源の管理」アイコンをダブルクリックします。
  「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
  2 「電源設定」タブの「システム スタンバイ」を「20 分後」以上に設定します。

POINT

- **設定値が 20 分より短いと、パソコン本体が省電力モードに移行していても他のコンピュータからの接続確認データを受信して、省電力モードから復帰してしまう場合があります。なるべく 20 分よりも長い値を設定してください。**

ファイル共有サービス

NetWare ネットワーク共有サービスによりファイル共有を行う場合、別のコンピュータと接続中に接続が切れる場合があります。この場合、Microsoft ネットワーク共有サービスをインストールし、再度接続してください。

ネットワークドライブの割り当て

「ネットワークドライブの割り当て」機能を使ってネットワーク上の共有フォルダにドライブ名を割り当てていると、Windows98 を正常に終了または再起動できなくなる場合があります。その場合は Windows98 を終了または再起動する前に、「ネットワークドライブの割り当て」を解除してください。
詳細については、富士通パソコンホームページ FM WORLD（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。

プロトコルの設定

本パソコンでのネットワークの運用時には、必ず通信プロトコルを確認してください。「コントロールパネル」ウィンドウの「ネットワーク」アイコンをダブルクリックし、「ネットワークの設定」タブで確認および変更します。本パソコンのご購入時の設定では、「TCP/IP」が選択されていますので、接続するネットワークのプロトコルに合わせて変更してください。使用するプロトコルについては、ネットワーク管理者にご確認ください。

ネットワーク使用時の留意事項

次の LAN デバイスを複数使用したネットワーク運用は行えません。

- 2 枚の LAN カード
- パソコン本体の内蔵 LAN デバイスと LAN カード

LAN の設定を変更する（LAN モデルとコンボモデル）

LAN の設定を変更する場合、お使いになる環境に合わせて次の設定を行ってください。

POINT

- LAN の設定は、LAN ケーブルを接続してから行ってください。

■ スピードとデュプレックスの設定

本パソコンをハブユニットへ接続したとき、ハブユニット側のリンクランプが点灯せず、ネットワークのサーバーなどへ接続できない場合は、次の手順でハブユニットに合った設定へ変更してください。

1 「ネットワークコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ネットワークの設定」タブで「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「詳細設定」タブで通信速度を変更します。

- Speed：伝送路速度を指定します。指定しない場合は自動認識で動作します。
  10Mbps（10BASE-T）
  100Mbps（100BASE-TX）
- Duplex：通信方式を指定します。指定しない場合は自動認識で動作します。
  Full-Duplex（全二重モード）
  Half-Duplex（半二重モード）

POINT

- 全二重モードに設定する場合、ハブユニット側も全二重モードに設定する必要があります。

4 「OK」をクリックし、「ネットワーク」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。

再起動メッセージが表示されます。

5 「はい」をクリックします。

■ ローカルアドレスの設定

ローカルアドレスを使用する場合は、次の設定を行ってください。

1 「ネットワークコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「ネットワーク」ダイアログボックスが表示されます。

2 「ネットワークの設定」タブで「Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。

3 「詳細設定」タブをクリックします。

4 「Network Address」を選択し、「値」に値を設定します。

「値」には、「02」で始まる 16 進 12 桁を入力します。グローバルアドレスに戻したい場合は「0」を指定してください。

POINT

- 設定する値については、ネットワーク管理者に確認してください。

上記以外のパラメータについては、オンラインヘルプをご覧ください。

5 「OK」をクリックし、「ネットワーク」ダイアログボックスの「OK」をクリックします。

再起動メッセージが表示されます。

6 「はい」をクリックします。

Windows Media Player などによる動画および音声再生

動画ファイルおよび音声ファイルを複数同時に起動すると、正しく再生できない場合があります。このような場合はファイルを 1 つだけ起動して、再生することをお勧めします。

Intellisync をケーブルで使用する場合

ケーブルはコンピュータ直結ケーブルを使用してください。ケーブルの結線は次のとおりです。

● パラレルケーブル接続

D-SUB 25Pin		D-SUB 25Pin
Pin 2	—	Pin 15
Pin 3	—	Pin 13
Pin 4	—	Pin 12
Pin 5	—	Pin 10
Pin 6	—	Pin 11
Pin 15	—	Pin 2
Pin 13	—	Pin 3
Pin 12	—	Pin 4
Pin 10	—	Pin 5
Pin 11	—	Pin 6
Pin 25	—	Pin 25

● シリアルケーブル接続

D-SUB 9Pin	D-SUB 25Pin		D-SUB 25Pin	D-SUB 9Pin
Pin 5	Pin 7	—	Pin 7	Pin 5
Pin 3	Pin 2	—	Pin 3	Pin 2
Pin 7	Pin 4	—	Pin 5	Pin 8
Pin 6	Pin 6	—	Pin 20	Pin 4
Pin 2	Pin 3	—	Pin 2	Pin 3
Pin 8	Pin 5	—	Pin 4	Pin 7
Pin 4	Pin 20	—	Pin 6	Pin 6

POINT

▶ コネクタのピン配列と信号名（→『ハードウェアガイド』参照）

フロッピーディスクドライブユニットの着脱（〔MF〕〔MC〕）

フロッピーディスクドライブユニットが接続されていない状態で A ドライブにアクセスすると、応答に時間がかかる場合があります。

CD-ROM 読み込み中の省電力機能

CD-ROM 読み込み中に省電力モードに移行すると、レジューム時にエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、【Enter】キーを押してください。

USB 機器の増設について

複数の USB 機器を増設して同時に使用すると、USB 機器の動作が不安定になる場合があります。この場合は、使用する機器だけを USB コネクタに接続してお使いください。

内蔵モデム経由でナンバーディスプレイ対応の電話番号に接続するには（モデムモデルとコンボモデル）

「184」「186」を付けてダイヤルすると正常に接続できない場合があります。「184」「186」と接続先の電話番号の間に「,（カンマ）」を入れてダイヤルしてください。

他のマウスドライバをインストールするには（〔MC〕）

PS/2 マウスをお使いになる場合に、Microsoft 社製 IntelliMouse™ などのマウスドライバをインストールするときは、次のように操作してください。

- **タッチパネルがインストールされている場合（〔MC〕タッチパネルモデル）**
  まずタッチパネルをアンストールし、他のマウスドライバをインストールします。
  タッチパネルをアンインストールするには、「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」アイコンで「Fujitsu Touch Panel (PS/2)」を削除します。
- **クイックポイント IV ドライバがインストールされている場合（〔MC〕ベースモデル）**
  まず他のマウスドライバをインストールし、クイックポイント IV ドライバをアンインストールします。
  クイックポイント IV ドライバをアンインストールするには、「コントロールパネル」ウィンドウの「アプリケーションの追加と削除」アイコンで「Fujitsu QuickPoint Keyboard Support 1.02.7ak」を削除します。

POINT

- **他のマウスドライバをインストール後、再起動時に「TrackPoint」ダイアログボックスが表示されたら、「OK」をクリックしてください。**

クイックポイント IV ドライバの留意事項（〔MC〕ベースモデル）

- クイックポイント IV ドライバがインストールされている場合は、PS/2 マウスでのホイール機能はサポートしておりません。
- クイックポイント IV ドライバでは、「コントロールパネル」ウィンドウの「クイックポイント」アイコンをダブルクリックしてポインティングデバイスの機能を設定できます。
- クイックポイント IV ドライバはポインティングデバイスのドライバです。「スクロール機能」タブの「スクロール／拡大表示機能の切り替え」などは、マウスでサポートしていません。マウス使用時は「クイックポイントのプロパティ」ダイアログボックスでの設定が正しく動作しないことがあります。
- アプリケーションによっては、「スクロール／拡大表示機能の切り替え」などの機能が使用できない場合があります。

タッチパネルドライバの留意事項（〔MC〕タッチパネルモデル）

タッチパネルドライバがインストールされている場合は、PS/2 マウスでのホイール機能はサポートしておりません。

携帯電話接続ケーブル（FMV-NCBL92）を使用した移動体通信（モデムモデル（PDC コネクタ付き））

本パソコンでは、「携帯電話接続ケーブル（FMV-NCBL92）」を使用して移動体通信ができます。「携帯電話接続ケーブル（FMV-NCBL92）」の取り扱い方法は『ハードウェアガイド』をご覧ください。

■ 使用できる携帯電話

使用できる携帯電話については、富士通パソコンホームページFM WORLD（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。使用できるかどうかの確認は、Internet Explorer 4.0、Outlook Express、Hyper Terminal、10 円メールマスター Ver.2 などで行っています。

■ 必要な操作

1 「コントロールパネル」ウィンドウで「モデム」アイコンをダブルクリックします。

2 「モデムのプロパティ」ダイアログボックスの「全般」タブで「Fujitsu　SOFT PDC」を選択します。

3 「ダイヤルのプロパティ」ダイアログボックスで所在地情報を設定します。

- 「市外局番」には、接続先の市外局番と違う数字を入力する
- 「外線発信番号」が入力されていたら削除する
- 「ダイヤル方法」で「トーン」をクリックする

POINT

▶ 携帯電話用の新しい所在地情報を登録することをお勧めします。

■ 留意事項

- 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- PDC コネクタに接続した携帯電話で通信をしているときは、スタンバイ／レジューム機能を使用できません。
- 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- PDC コネクタに接続した携帯電話どうしでの対向接続は使用できません。
- PDC コネクタに接続して通信を行う場合の AT コマンドは、内蔵モデム（V.90 対応）のものと仕様が異なります。
- スタンバイ中にモデムに着信したときにレジュームするように設定（→ P.49）していても、PDC コネクタに接続した携帯電話からの着信ではレジュームしません。
- 通信中または通信アプリケーションを起動中には、スタンバイや休止状態にはできません。
- 電波状況によっては、通信が途中で切断される場合があります。この場合、携帯電話での通信が切断されていても、通信アプリケーションの通信が切断されていないことがあります。このようなときは、いったん通信アプリケーションでの通信を終了してから、もう一度通信を行ってください。
- 通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。
- AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。

携帯電話／ PHS 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL101/102）を使用した移動体通信

本パソコンでは、「携帯電話／ PHS 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL101/102）」を使用して、移動体通信ができます。「携帯電話／ PHS 接続用 USB ケーブル（FMV-CBL101/102）」の取り扱い方法については、「ドライバーズ CD」の「Fjusb」フォルダにある Readme.txt をご覧ください。

■ 使用できる携帯電話 ／ PHS

使用できる携帯電話／ PHS については、富士通パソコンホームページ FM WORLD（http://www.fmworld.net/）をご覧ください。使用できるかどうかの確認は、Internet Explorer 4.0、Outlook Express、Hyper Terminal、10 円メールマスター Ver.2 などで行っています。

■ 留意事項

- 別売のケーブルに「FMV-CBL101 FMV-CBL102 ドライバ CD V1.0.01」が添付されている場合がありますが、添付の CD は使用しないでください。
- 通信アプリケーションが起動している場合は、アプリケーションを終了してからケーブルを接続してください。
- AT コマンドは、電話回線で通信するためのドライバと仕様が異なります。
- 携帯電話／PHS接続用USBケーブルでの通信後にスタンバイできない場合があります。この場合は、パソコン本体からケーブルを取り外してからスタンバイしてください。
- 移動中は、電波の状況などにより通信が切断されることがあります。
- 電波状況によっては、通信が途中で切断される場合があります。この場合、携帯電話や PHS での通信が切断されていても、通信アプリケーションの通信が切断されていないことがあります。このようなときは、いったん通信アプリケーションでの通信を終了してから、もう一度通信を行ってください。
- 通信中または通信アプリケーションを起動中には、スタンバイや休止状態にはできません。
- 本体内蔵モデムと同時に使用することはできません。
- USB コネクタに接続した携帯電話や PHS どうしでの対向接続はできません。
- PHS をケーブルに接続する場合は、Windows が起動した状態で行ってください。
- 携帯電話接続用USBケーブルで通信中にMicrosoft® NetMeetingを使用すると、本パソコンの動作が遅くなる場合があります。この場合は、本パソコンを再起動してください。
- 携帯電話接続用 USB ケーブルを NTT DoCoMo Doccimo に接続してお使いになる場合、Doccimo のモードを携帯電話から PHS、または PHS から携帯電話に変更するときは、いったん携帯電話から接続ケーブルを取り外し、再度接続してください。
- 携帯電話接続用USBケーブルで、大容量のファイルやメールの送受信を同時に複数行うと、途中でデータの送受信が止まってしまうことがあります。この場合は、1 つずつ送受信を行ってください。

全画面表示の設定（〔NA〕〔NU〕）

画面を通常表示または全画面表示にできます。液晶ディスプレイよりも小さな解像度に設定したときに、画面がディスプレイ中央に小さく表示または全画面表示されるようにするには、次の手順で設定を変更してください。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「詳細」をクリックします。

4 「ATI 画面」タブをクリックします。

5 「パネル」をクリックします。
「ATI プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。

6 「イメージをパネルサイズに」の左側の または をクリックします。

にすると、液晶ディスプレイよりも小さい解像度に設定した場合は、画面液晶ディスプレイ中央に小さく表示されます。

にすると、液晶ディスプレイよりも小さい解像度に設定した場合は、画面が液晶ディスプレイ全体に大きく表示されます。

7 「OK」をクリックし、すべてのダイアログボックスを閉じます。

画面表示に関する留意事項

- 次のような場合に、画面が乱れたり画面上に線が見えることがあります。
  - Windows98 を起動、または終了するとき
  - スタンバイ状態になるとき、または元の状態に戻るとき
  - 画面の解像度や発色数、リフレッシュレートを変更するとき
  - フルスクリーンにする、または元の状態に戻すなど、画面が切り替わるとき

  これは一時的な画面の乱れで、故障ではありません。あらかじめご了承ください。
- 「コントロールパネル」ウィンドウでアイコンを選択したときに、ウィンドウの左側の説明（選択したアイコンの情報が表示される部分）が正しく表示されない場合があります。この場合は、「コントロールパネル」ウィンドウを再表示（ウィンドウを最小化して元に戻すなど）してください。
  また、Safe モード中に表示したウィンドウ（「コントロールパネル」ウィンドウなど）は、そのあと Windows98 を再起動しても、ウィンドウ左側の説明が表示されません。この場合は、そのウィンドウの「表示」メニューの「Web ページ」をチェックすると、説明が表示されるようになります。

- 「画面のプロパティ」ダイアログボックスを表示したときや、「画面のプロパティ」ダイアログボックスの「ディスプレイの詳細」タブで色数を変更後再起動したときに、まれにエラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、表示されたメッセージの「閉じる」をクリックし、Windows98 を再起動してください。
- 3D ポインタなどを使用していると、動画などを再生中にマウスポインタが表示されなかったり、ちらついて表示されたりすることがあります。このときは、「マウスのプロパティ」ダイアログボックス（「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「マウス」アイコンをダブルクリックすると表示されます）の「ポインタ」タブの「デザイン」を「(なし)」に設定してください。

Windows98 の起動と終了に関する留意事項

Windows98 の起動と終了については、次の点に注意してください。

- アプリケーションのウィンドウを表示したまま Windows98 を終了または再起動すると、エラーメッセージが表示される場合があります。また、Windows98 の終了または再起動中に、編集中のデータを保存するかどうかの確認メッセージが表示され、保存するように指定しても、正しく保存されない場合があります。Windows98 を終了または再起動するときは、必要なデータをすべて保存し、起動しているアプリケーションをすべて終了してください。
- アプリケーション（「メモ帳」や「ペイント」など）でファイルを新規に作成したあとに Windows98 を終了するときは、作成したファイルが必要な場合は、必ずそのファイルを保存してから Windows98 を終了してください。ファイルを保存せずに Windows98 を終了しようとしたときにも、保存先やファイル名を指定するダイアログボックスが表示されますが、このとき日本語入力システムは使用できません。

「アクセサリ」に関する留意事項

■「スキャンディスク」実行中のメッセージ

「スキャンディスク」を実行中に、次のような警告メッセージが表示されることがあります。

「Windows または他のアプリケーションがこのドライブに書き込みを行っているため、再試行回数が 10 回に達しました。実行中の他のアプリケーションを終了すると、チェックが早く行われます。今後もこの警告メッセージを表示しますか？」

この警告メッセージはアプリケーションや、Windows98 のメモリスワップ機能が、ディスクに書き込みを行っているために表示されるもので、本パソコンの異常を表すものではありません。

「いいえ」をクリックして今後このメッセージを表示しないようにするか、「はい」をクリックしてそのまま処理を続けてください。

■「Microsoft Backup」でテープデバイスを使用できない場合

出荷時の状態では、「Microsoft Backup」を使用してテープデバイスへバックアップすることはできません。「Microsoft Backup」でテープデバイスを使用する場合は、次の手順に従って、「Microsoft Backup」をインストールし直してください。

1 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックし、「Windows ファイル」タブをクリックします。

3 「ファイルの種類」の一覧から「システムツール」を選択し、「詳細」をクリックします。

4 「ファイルの種類」の一覧から「Microsoft バックアップ」のチェックを外し、「OK」をクリックします。

5 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスで、「OK」をクリックします。表示されるメッセージに従い、パソコンを再起動します。

6 「Microsoft Backup」の削除が完了したら、再度手順 1 ～ 3 を行います。

7 「ファイルの種類」の一覧から「Microsoft バックアップ」をチェックし、「OK」をクリックします。

8 「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」ダイアログボックスで、「OK」をクリックします。メッセージに従ってパソコンを再起動してください。

POINT

- 「Microsoft Backup」を再インストールすると、本体のパラレルコネクタにプラグアンドプレイ対応の機器（プリンタなど）を接続した場合に、次のような問題が発生する場合があります。
  - 接続した機器がまったく認識されない
  - パソコンを起動するたびに、接続した機器が検出される
  - 同じ機器を接続しても、検出されたり、検出されなかったりする
  - 接続した機器の動作が不安定になる

  上記のような問題が発生する場合は、次の方法で回避できることがあります。
  - Windows98 を起動したあとに、パラレルコネクタに接続した機器の電源を入れる
  - ドライバのインストールがうまくいかない場合は、「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」の順にクリックし、「プリンタの追加」からインストールする

  上記の手順は一例です。詳細は、ご購入になった機器のメーカーに問い合わせるか、機器に添付のマニュアルをご覧ください。

■「ドライブスペース」起動時のメッセージ

他のアプリケーション（常駐するアプリケーションも含め）を起動しているときに「ドライブスペース」を使用すると、エラーメッセージが表示される場合があります。この場合は、他のアプリケーションを終了させてから、「ドライブスペース」をお使いください。

■「サウンドレコーダー」起動時のメッセージ

「サウンドレコーダー」を起動したときに、「サウンドレコーダーの設定が他のアプリケーションに変更されています。」というメッセージが表示される場合があります。
この場合は、「はい」をクリックして「サウンドレコーダー」を続けてください。本メッセージが表示されても、「サウンドレコーダー」の使用上は何も問題はありません。

■「ペイント」でビットマップの色が正常に保存できない場合

「ペイント」にビットマップを貼り付け保存せずに「ペイント」を終了すると、保存を確認するメッセージが表示されます。そのとき「はい」をクリックして保存すると、データの色数が 256 色の場合、ビットマップの色が正常に保存されない場合があります。「ペイント」を終了する場合は、「ファイル」メニューの「上書き保存」または「名前を付けて保存」をクリックし、ビットマップを保存してから終了してください。

また、ワープロソフトなどで作成した文書に貼り付けられた画像をオブジェクト編集する場合には、呼び出された「ペイント」のパレットの色が正しく表示されません。オブジェクトの編集は、画像を貼り付ける前に行ってください。

■「システム情報」で作成したテキストファイル

「システム情報」で、「ファイル」メニューの「エクスポート」を行うと、作成されたファイル内の「ドライブの空き領域」の値が、画面上の「Microsoft システム情報」で表示される内容と異なります。画面で表示されている値が正しい情報ですので、そちらをご覧ください。

■「拡大鏡」使用時の留意事項

「拡大鏡」を使用している場合、次の操作は「拡大鏡」を終了してから行ってください。

- 起動時に画面の解像度が変わるアプリケーションの起動
- Windows98 の終了

「拡大鏡」を起動したまま上記の操作を行うと、「拡大鏡」や壁紙が正しく表示されなくなる場合があります。「拡大鏡」が正しく表示されないときは、「拡大鏡」を再起動してください。壁紙が正しく表示されないときは、Windows98 を再起動してください。

アプリケーションのインストール時／アンインストール時の留意事項

アプリケーションのインストール／アンインストールについては、次の点に注意してください。

- アプリケーションを削除する方法は、それぞれのアプリケーションごとに異なります。各アプリケーションのマニュアル、またはヘルプをご覧ください。
- アプリケーションをアンインストールしたとき、そのアプリケーションに関連した、お客様が作成したファイルや設定した環境などが消えてしまうことがあります。アプリケーションを削除する前に、必要なファイルをフロッピーディスクなどにバックアップしておくことをお勧めします。
- アプリケーションをアンインストールする際、共有モジュールは削除しないことをお勧めします。削除すると、インストールされている他のアプリケーションが起動できなくなるなど、他のアプリケーションに影響を与える場合があります。
- 各アプリケーションを再インストールしたあと、「スタート」メニューにショートカットは登録されても、アイコンが表示されない場合があります。このときは、パソコン本体を再起動してください。
- アプリケーションのインストールまたはアンインストールを行うときに、他のアプリケーションを起動していると、アプリケーションエラーが発生することがあります。必ず、起動中のアプリケーションをすべて終了してから行ってください。
- アプリケーションのインストール時に、インストールが完了したことを知らせるダイアログボックスが他のウィンドウなどに隠れてしまう場合があります。この場合は、【Alt】+【Tab】キーを何回か押して、完了を知らせるダイアログボックスを表示し、インストールを終了させてください。

- アプリケーションをインストールしたあと、タスクバーに不要なボタンが残る場合があります。この場合は、そのボタンをクリックすると、ボタンが消えます。
- 特定のファイルとアプリケーションが関連付けられている場合、そのアプリケーションをアンインストールすると、関連付けの設定も解除されます。
- 一部のアプリケーションでは、アンインストール後、Windows98 を起動するたびに「プログラム開始エラー！」と表示される場合があります。これは、アプリケーションがアンインストールされたあともスタートアップにアプリケーションのショートカットが登録されたままになっているためです。この場合は、「スタート」メニューの該当するショートカットを削除してください。

時刻の設定が反映されない場合

「日付と時刻のプロパティ」ダイアログボックス（「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックし、「日付と時刻」アイコンをダブルクリックすると表示されます）で日付や時刻を変更したあと、「適用」をクリックして設定した場合は、「OK」をクリックして「日付と時刻のプロパティ」ダイアログボックスを閉じてください。「キャンセル」または で閉じると、変更した結果が正しく設定されない場合があります。

フロッピーディスクのフォーマット

未フォーマットのフロッピーディスクをWindows98でフォーマットすると、他のOS上でフォーマットするときよりも時間がかかります。あらかじめご了承ください。

また、未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマット中は、「フォーマット」ダイアログボックスの「キャンセル」をクリックしないでください。もし「キャンセル」をクリックしてしまった場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して、Windows98 を再起動してください。

「エクスプローラ」が動作しなくなった場合

「エクスプローラ」で CD-ROM ドライブの内容を表示したまま Windows98 を再起動し、その再起動中に CD-ROM を取り出すと、再起動した直後に「エクスプローラ」が反応しなくなる場合があります。この場合は、【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押して、「エクスプローラ」を終了してください。

スタンバイ状態での異常終了

スタンバイ状態で、電源を切ったり異常終了したりすると、次のメッセージが表示される場合があります。

「コンピュータは、何度か待機状態になり、応答を停止しました。今後、待機状態にならないようにしますか？」

この場合は、必ず「いいえ」をクリックしてください。「はい」をクリックすると、以降スタンバイ機能が使用できなくなります。

2 Save To Disk 領域

ここでは、休止状態のときに使用する Save To Disk 領域の概要と作成方法を説明します。

形式と容量

Save To Disk 領域には、「区画形式」と「ファイル形式」があります。また、Save To Disk 領域として必要になる容量は、次のように決まります。

Save To Disk 領域の必要容量＝メインメモリ容量＋ビデオメモリ容量・その他

Save To Disk 領域の必要容量には、メインメモリ容量とビデオメモリ容量以外に若干の作業領域が必要です。そのため、Save To Disk 領域の容量は、メインメモリ容量とビデオメモリ容量の合計よりも多くなっています。

ご購入時の設定については、「プレインストール仕様」の「Save To Disk 領域」（→ P.24）をご覧ください。

POINT

- 区画形式でSave To Disk領域を作成する場合は、ファイル形式でSave To Disk領域を作成する場合よりも、大きな容量が必要になります。
- 「ドライブスペース」などのディスク圧縮機能で圧縮されたドライブ上では、Save To Disk 領域をファイル形式で使用することはできません。Save To Disk 領域をファイル形式で作成しているときは、「ドライブスペース」などのディスク圧縮機能は使用しないでください。

PHDISK ユーティリティでの Save To Disk 領域の作成

PHDISK ユーティリティには、Save To Disk 領域の作成、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などの機能があります。本パソコン出荷時に Save To Disk 領域が作成されているので、再フォーマット、削除および詳細情報の表示などを行いたい場合に PHDISK ユーティリティを使用してください。PHDISK ユーティリティ（PHDISK.EXE）は、「リカバリ CD-ROM」（〔MC〕は「リカバリ CD-ROM 起動ディスク」）に含まれています。

重 要

- 区画形式の Save To Disk 領域の作成は、FDISK ユーティリティによる MS-DOS 領域作成前に行ってください。
- Save To Disk 領域を作成後は必ずパソコン本体を再起動してください。
  作成直後に Save To Disk を行うと正しく動作しない場合があります。
- Save To Disk 領域はファイル形式または、区画形式のどちらか一方しか作成できません。
- 区画形式の Save To Disk 領域の容量を増やす場合は、組み込まれている MS-DOS 領域の容量を FDISK により減らす必要があります。この際、それまでの MS-DOS 領域内のデータはすべて失われます。作業前に大切なデータをバックアップしてください。

また、Windows98 の場合、PHDISK ユーティリティは、Windows モードが起動されていると正しく動作しません。PHDISK ユーティリティは、MS-DOS モードを起動し、MS-DOS モード上でお使いください。

● **使用方法**

PHDISK ［オプション］

オプションは次のとおりです。

/CREATE　/FILE（または /PARTITION）

/DELETE　/FILE（または /PARTITION）

/REFORMAT　/PARTITION

/INFO

それぞれのオプションは、先頭の 1 文字だけでも有効です。たとえば、/CREATE と /C は同じです。PHDISK とオプションの間、オプションとオプションの間は、半角空白を 1 つ入れてください。また、PHDISK をオプションなしで起動すると、簡単な使用方法、現在作成されている領域などが表示されます。

オプションについて

● /CREATE /FILE（または /PARTITION）

このオプションは Save To Disk 領域がまだ作成されていない場合に使用します。

/CREATE　/FILE と指定すると、Save To Disk 領域をファイル形式で作成します。

/CREATE　/PARTITION と指定すると、Save To Disk 領域を区画形式で作成します。Save To Disk 領域の容量は、現在のシステム構成で最適な容量の領域を作成します。

区画形式で作成した場合、Save To Disk 領域の作成が終わると、その区画のフォーマットを開始します。フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使用しないようにします。

● /REFORMAT /PARTITION

区画形式の Save To Disk 領域を再フォーマットします。

このオプションは、休止状態を使用していて、読み出しエラーや書き込みエラーが起こった場合に使用してください。再フォーマット中にハードディスクに不良セクタを見つけた場合は、そのセクタにマークを付けて、以後使用しないようにします。Save To Disk 領域の容量が変わることはありません。

● /DELETE /FILE（または /PARTITION）

すでに作成されている Save To Disk 領域を削除する場合に使用します。

/DELETE　/FILE と指定すると、ファイル形式の Save To Disk 領域を削除します。

/DELETE　/PARTITION と指定すると、区画形式の Save To Disk 領域を削除します。

Save To Disk 領域の容量を変更したい場合は、まず /DELETE によりすでに作成された Save To Disk 領域を削除し、/CREATE により新たに希望の容量の Save To Disk 領域を作成します。

● /INFO

すでに作成されている Save To Disk 領域に関する詳細情報を表示します。

● **表示例《区画形式》**

Save to Disk 領域詳細情報：

　開始セクタ：XXXXXXX（ヘッド X、シリンダ XXX、セクタ X）

　全容量：XXXXX バイト

現在の状態：

　現在の構成では、XXXXXk バイトの Save to Disk 領域が必要です。PHDISK はさらに多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

● **表示例《ファイル形式》**

Save to Disk 領域詳細情報：

現在の Save to Disk 領域は、ファイル名が C:¥SAVE2DSK.BIN で、サイズは XXXXXk bytes です。属性は、システム、隠しファイル、および読取専用です。

現在の状態：

現在の構成では、XXXXXk バイトの Save to Disk 領域が必要です。PHDISK はさらに多少の作業領域を必要とし、実際に必要な全領域のバイト数を自動的に計算します。

索引

記号

10 円メールマスター 21
　ーのインストール 74
3 モードフロッピーディスク
ドライバ 20

A

Acrobat Reader 19
　ーのインストール 70

B

BATTERYAID 19
　ーのインストール 69

C

CD-ROM 22

D

DirectX7.0a 19
　ーのインストール 68

F

FAT16 . . . . . 24, 61
FAT32 . . . . . 24, 61
FDISK 61
FM Advisor 19, 82
　ーのインストール 69
FMKEEPER 21
　ーのインストール 74
FM-Menu 21
　ーのインストール 74
FMV 診断 20, 82
　ーのインストール 71
FM 一発修正 20, 25, 82
　ーのインストール 71

G

GlidePoint 21
　ーのインストール 72

H

HSFMODEM 22

I

Intel SpeedStep 19, 55
　ーのインストール 69
Intellisync 19, 47
　ーのインストール 70
　ーの留意事項 47
Internet Explorer 5.01 19

L

LAN
　ーの設定を変更する 91

M

MFC ライブラリのアップデート
プログラム 20
Microsoft IME98 19
MODEL 84
MS-DOS モードで CD-ROM を
利用する 31

N

NIFTY MANAGER 21
　ーのインストール 75

O

OS 追加プログラム 20
　ー ShutdownSupplement 20
　ー URL Security アップデート
　プログラム 20
　ーシャットダウン修正モジュール . .20

P

PCMCIA ソケット 22
PHDISK ユーティリティ 102
PHS 接続用 USB ケーブル 96
PMSet98 . . . . . .19, 56
　ーのインストール 68

S

Save To Disk 領域. 24, 102
　ーの作成. 102
Softex BayManager 21
　ーのインストール. 75

T

TouchPad. 21
　ーのインストール. 71

V

VirusScan. 21, 28
　ーのインストール. 73

W

Wakeup On LAN 機能 89
Windows 98 ツール 19
Windows98 19
　ー起動ディスクの作成. 15
　ーセットアップ. 10
　ーの CD-ROM 88
WindowsNT 4.0. 88
Windows 環境調査ツール
（FM Advisor）. 19
　ーのインストール. 69

あ

アンインストール. 25
色数 32
液晶ディスプレイの明るさを
変更する 56
お問い合わせ前の確認シート. 85

か

解像度 32
キーボード. 22
機種名 84
休止状態 49
クイックポイント IV ドライバ. 21
　ーのインストール. 72
　ーの留意事項. 94
携帯電話接続ケーブル 95
携帯電話接続用 USB ケーブル 96
コンピュータウイルス 28
　ーの被害届け. 29
　ーを発見した場合. 29
コンピュータ名を変更する
（Intellisync）. 48

さ

サウンド、ビデオ、および
ゲームのコントローラ 22
使用許諾契約書 11
情報サービス 84
情報処理振興事業協会 29
スタンバイモード 49
　ーと休止状態への移行. 51
スタンバイ／レジューム機能の
留意事項 50
スピードの設定 91
赤外線通信 46
全画面表示の設定 97
ソフトウェアライブラリ
　ーアップデートプログラム. 20
　ーのアップデート. 66

た

タッチパネル
　ードライバの留意事項. 94
　ーの調整. 13
他の OS 88
ディスクドライブ 22
ディスプレイアダプタ 22
デュプレックスの設定 91
動作状態 52
ドライバーズ CD 67
ドライブ構成 24
トラブルシューティング. 78

な

名前 11
ネットワーク
　ーアダプタ. 22
　ー運用時の省電力機能. 89
　ー使用時の留意事項. 90

は

ハードディスク
　ーコントローラ 23
　ーの圧縮を解除する 59
　ーの領域を設定する 60
はじめよう！インターネット
（@nifty). 21
　ーのインストール 75
表示装置を切り換える 35
プレインストール
　ー仕様 19
　ーソフト 19
フロッピーディスク
　ーコントローラ 23
　ードライブユニット 93
　ードライブクリーニング
　　ユーティリティプログラム 20
プロトコルの設定 90
ポート（COM/LPT）. 23

ま

マウス 23
マルチモニタ機能 38
モデム 23
　ーを使用可能にする 12
モニタ 23
モバイルスイッチャー 21
　ーのインストール 74

や

ユーザー登録 15
ユニバーサルシリアルバス
コントローラ 23

ら

リカバリ 58, 63
リカバリ CD-ROM 58
リカバリ CD-ROM 起動ディスク 58
　ーのコピー 15
レジューム 52
連絡先 84
ローカルアドレスの設定 91

わ

ワンタッチボタン設定 21
　ーのインストール 73

FMV-6750NA7/B　FMV-6650NU7/L
FMV-6600NU7/L　FMV-650NU7C/L
FMV-650NU7C/W　FMV-6600MF7/X
FMV-645MF7C/W　FMV-645MC7C/W

Windows® 98 モデル
ソフトウェアガイド
B5FH-0501-01-00

発 行 日　2000 年 5 月
発行責任　富士通株式会社

● 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
● 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
● 無断転載を禁じます。